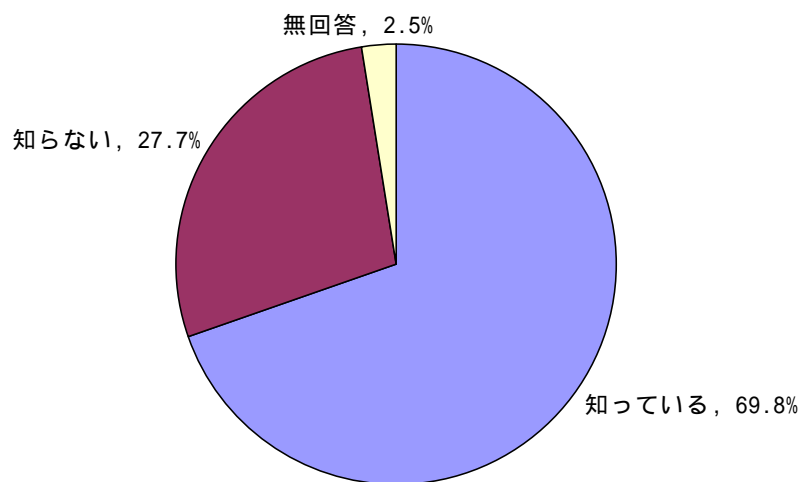


3. 「在宅医療」について

問12 あなたは、「在宅医療」について知っていますか。(はひとつ)



全体 (n=2,283)

「在宅医療」とは、さまざまな病気にかかれた方が、自宅において医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら療養生活を送ることをいいます。

7割が「在宅医療」について知っている

【全体結果】

「知っている」が69.8%で約7割を占め、「知らない」が27.7%である。

【属性別結果】(図8参照)

地区別

「知っている」の割合は、西蒲区が74.6%で最も高く、南区以外は7割前後である。南区は「知っている」の割合が6割と最も低く、60.6%である。

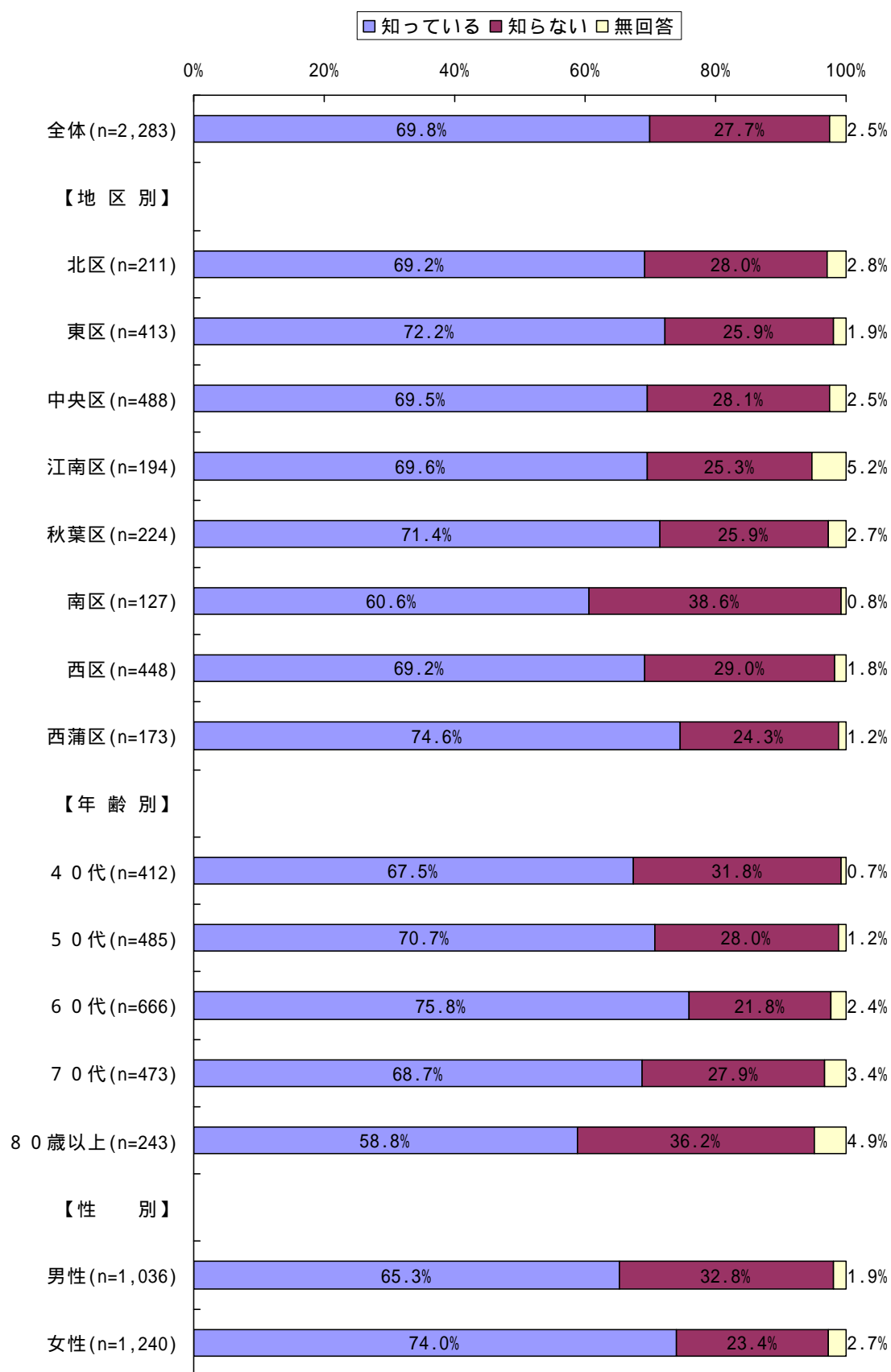
年齢別

「知っている」の割合が高いのは、60代(75.8%)、50代(70.7%)で7割以上である。80歳以上が一番低く、58.8%だが、いずれの年代も半数以上が「知っている」と回答している。

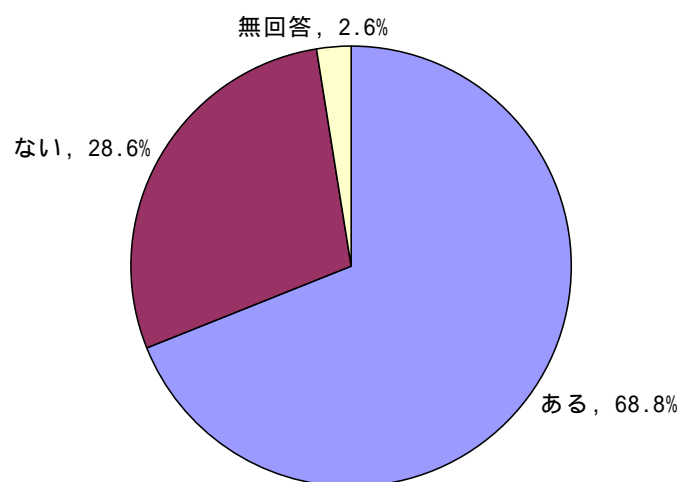
性別

「知っている」の割合は、女性(74.0%)の方が男性(65.3%)より高くなっている。

図8 「在宅医療」の認知状況



問13 あなたは、在宅医療や緩和ケア について関心がありますか。(はひとつ)



全体 (n=2,283)

「緩和ケア」とは、治療が難しい方のために、体の痛みや症状、精神的な不安をなるべく解消して、毎日を安らかに過ごせるように支える医療のことをいいます。

約7割が在宅医療や緩和ケアに関心がある

【全体結果】

認知度とほぼ同様に、関心が「ある」は68.8%で約7割を占め、「ない」は28.6%である。

【属性別結果】(図9参照)

地区別

「ある」の割合が高いのは、秋葉区(75.0%)、東区(71.4%)、江南区(70.6%)で7割以上である。一方、関心が「ない」の割合が高いのは南区(39.4%)、北区(33.6%)、西蒲区(33.5%)の順である。

年齢別

「ある」の割合が高いのは、70代(73.4%)が一番高く、60代(71.8%)、50代(71.5%)はほぼ同じで、3つの年代で7割以上を占めている。40代で関心が「ある」は58.5%で最も低く、約4割は関心が「ない」と回答している。

性別

「ある」の割合は、女性(72.6%)の方が、男性(64.5%)より高い。

【クロス集計結果】 在宅医療の認知度(1)と関心度(2)

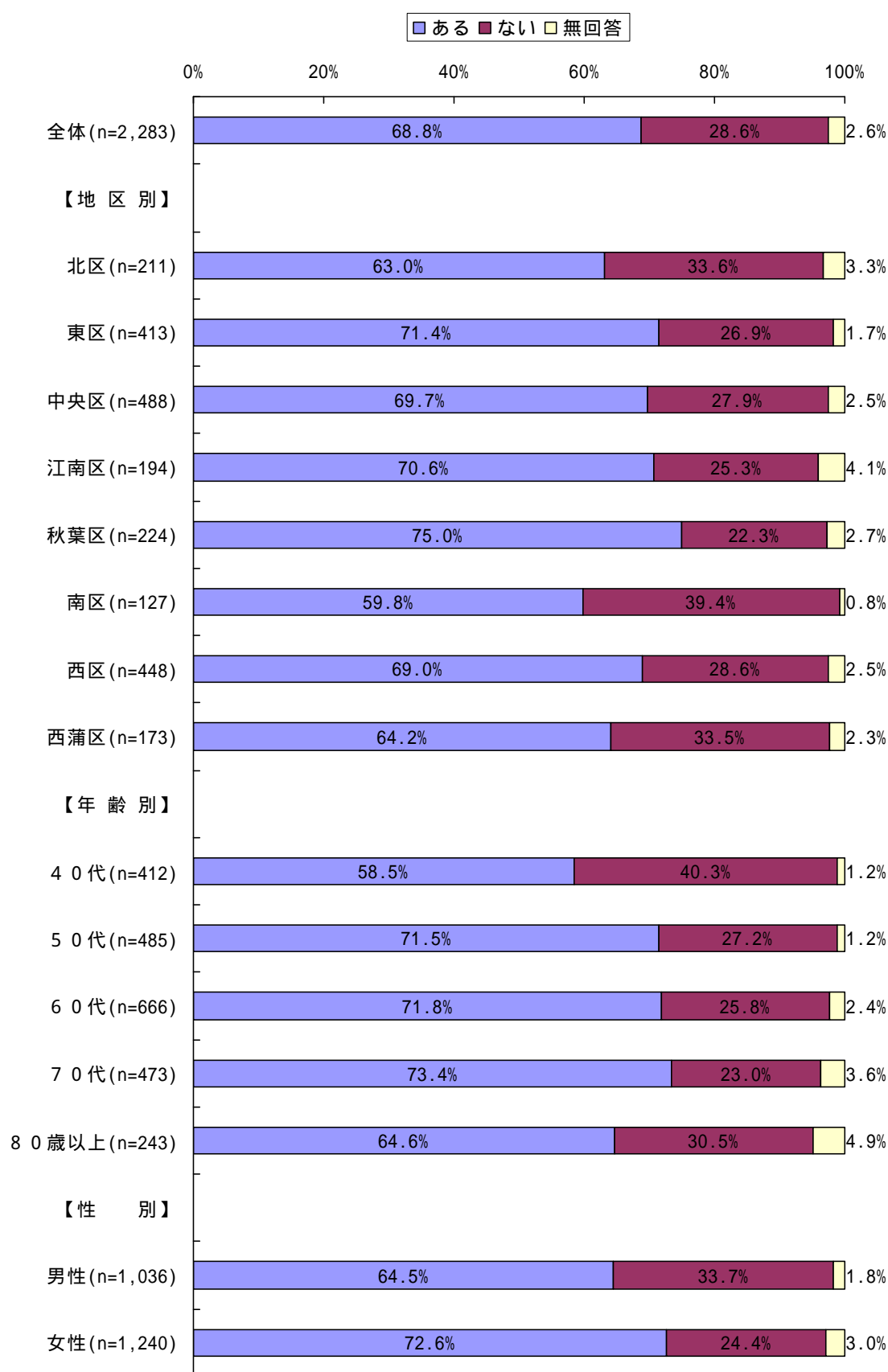
(1)在宅医療について「知っている」

(2)在宅医療や緩和ケアについて関心が「ある」

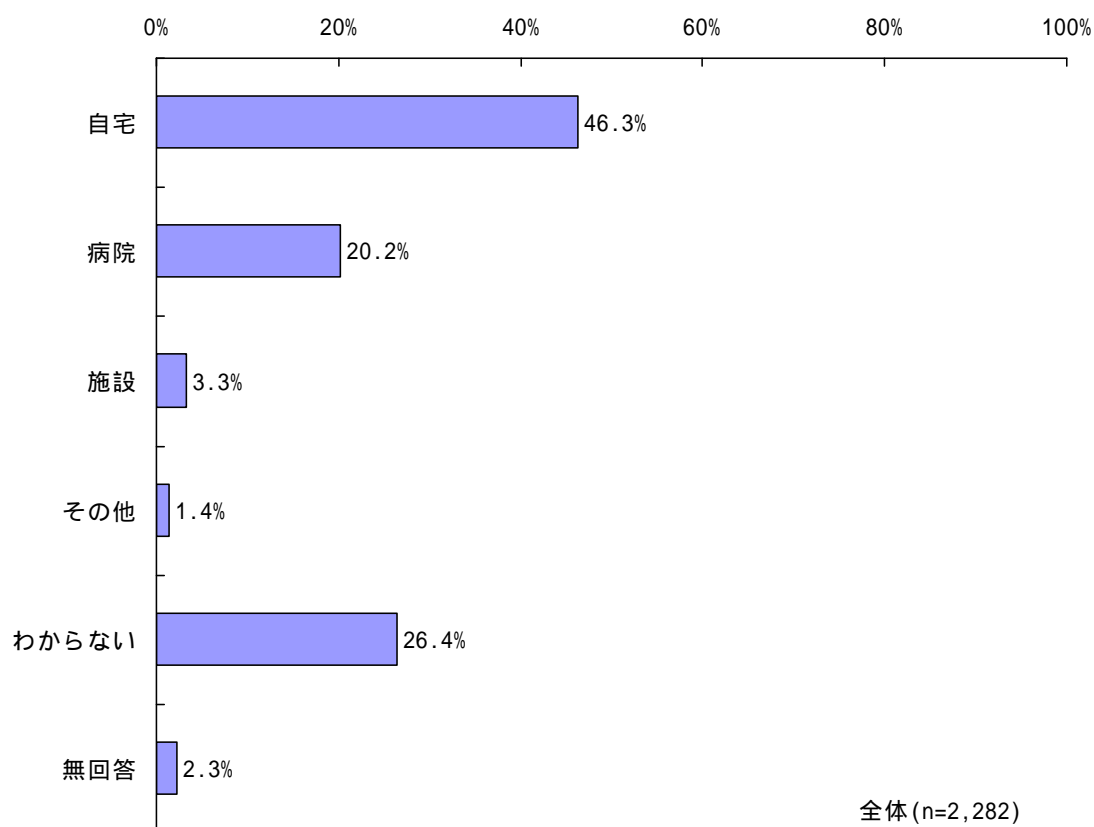
認知度が最も低い南区(60.6%)は、関心度も最も低い(59.8%)。しかし、認知度が最も高い西蒲区(74.6%)は、関心度は64.2%で高いとはいえず、認知度と関心度に相関関係があるとはいえない。

また、在宅医療について「知っている」と回答しているうち、関心が「ある」とした割合は75.7%であり、全体の68.8%より6.9ポイント上昇する。

図9 在宅医療や緩和ケアへの関心度



問14 あなたは、どこで最期を迎えたいと思いますか。(はひとつ)



約半数が自宅で最期を迎えたいと思っている

【全体結果】

「自宅」を希望するものは46.3%、「病院」が20.2%、「施設」が3.3%、「その他」が1.4%であり、「わからない」が4分の1(26.4%)である。

「その他」としては、「子供の所」、「家族の側で」、「すくなくとも地面の上で」、「どこでもよい」等がある。

【属性別結果】(図10参照)

地区別

「自宅」割合が高いのは、西蒲区、南区でともに51.2%と半数を上回り、逆に「自宅」の割合が低いのは中央区(42.6%)、秋葉区(44.2%)である。江南区は、「施設」の割合が高く6.7%である。

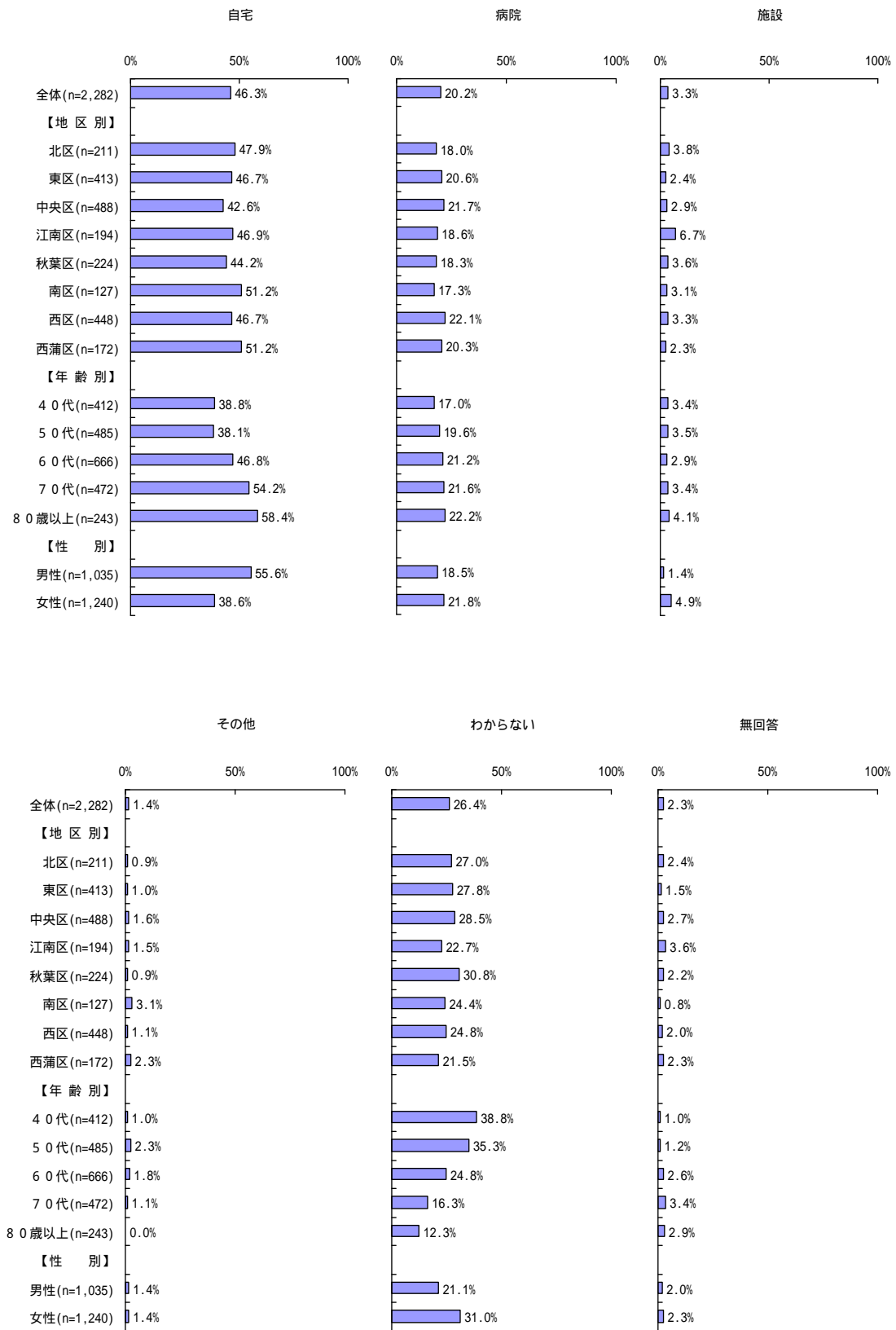
年齢別

「自宅」の割合が高いのは、80歳以上(58.4%)が最も多く、次いで70代(54.2%)と半数以上を占める。「自宅」、「病院」の割合は、年齢が高くなるにつれ増加する。「わからない」の割合は、年代とともに減少し、80歳以上は12.3%である。

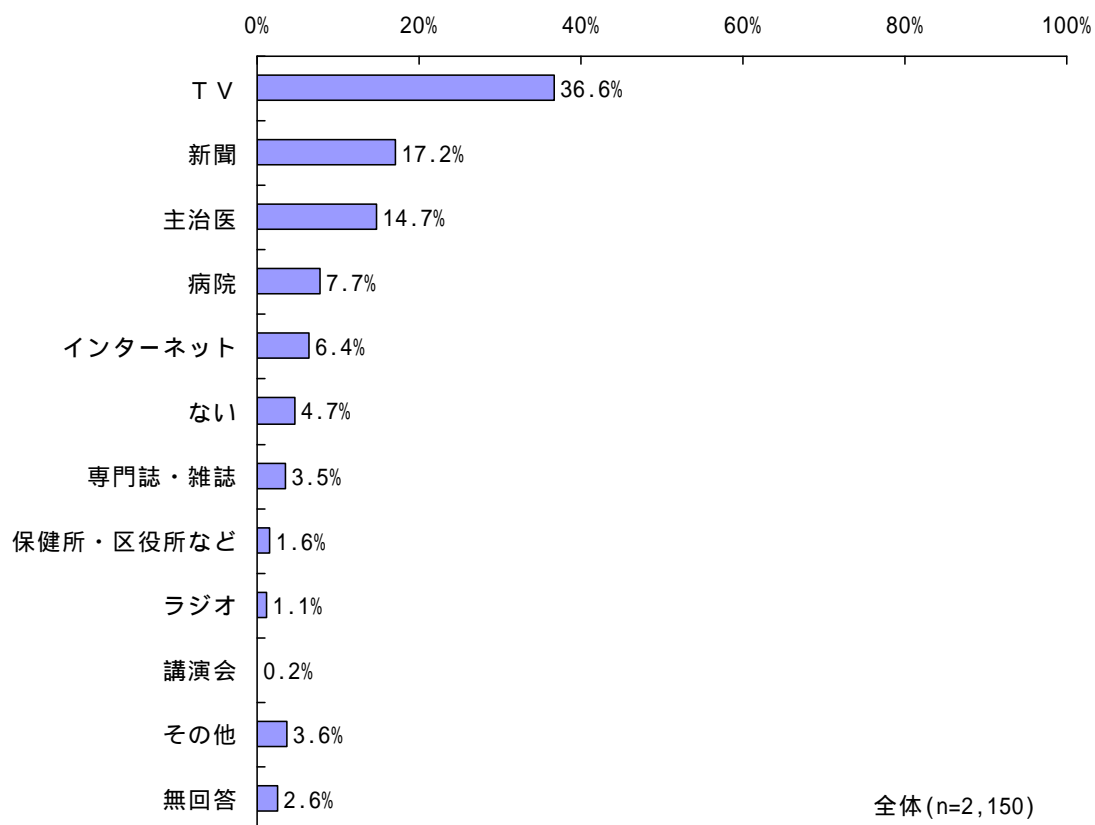
性別

男性は「自宅」の割合が高く(55.6%)、女性(38.6%)を大きく上回る。

図10 最期を迎えたい場所



問15 あなたは、日頃、医療についての知識や情報を何から得ていますか。(はひとつ)



医療についての情報源は、マスメディアが6割

【全体結果】

「テレビ」が最も多く、「新聞」、「インターネット」、「ラジオ」などマスメディアを合わせると約3分の2（61.3%）であり、「主治医」、「病院」、「保健所・区役所など」の専門機関からは、24.0%である。

「その他」として、「職場（医療・介護従事者）」、「訪問看護や介護サービス」、「家族、友人、知人」、「書籍」、「色々」、「分からない」等がある。

【属性別結果】(図11参照)

地区別

いずれの区も、「テレビ」が最も多く3～4割であり、西蒲区以外は次いで「新聞」、「主治医」と続く。西蒲区は、「主治医」、「新聞」と続き、上記3手段が上位を占める。

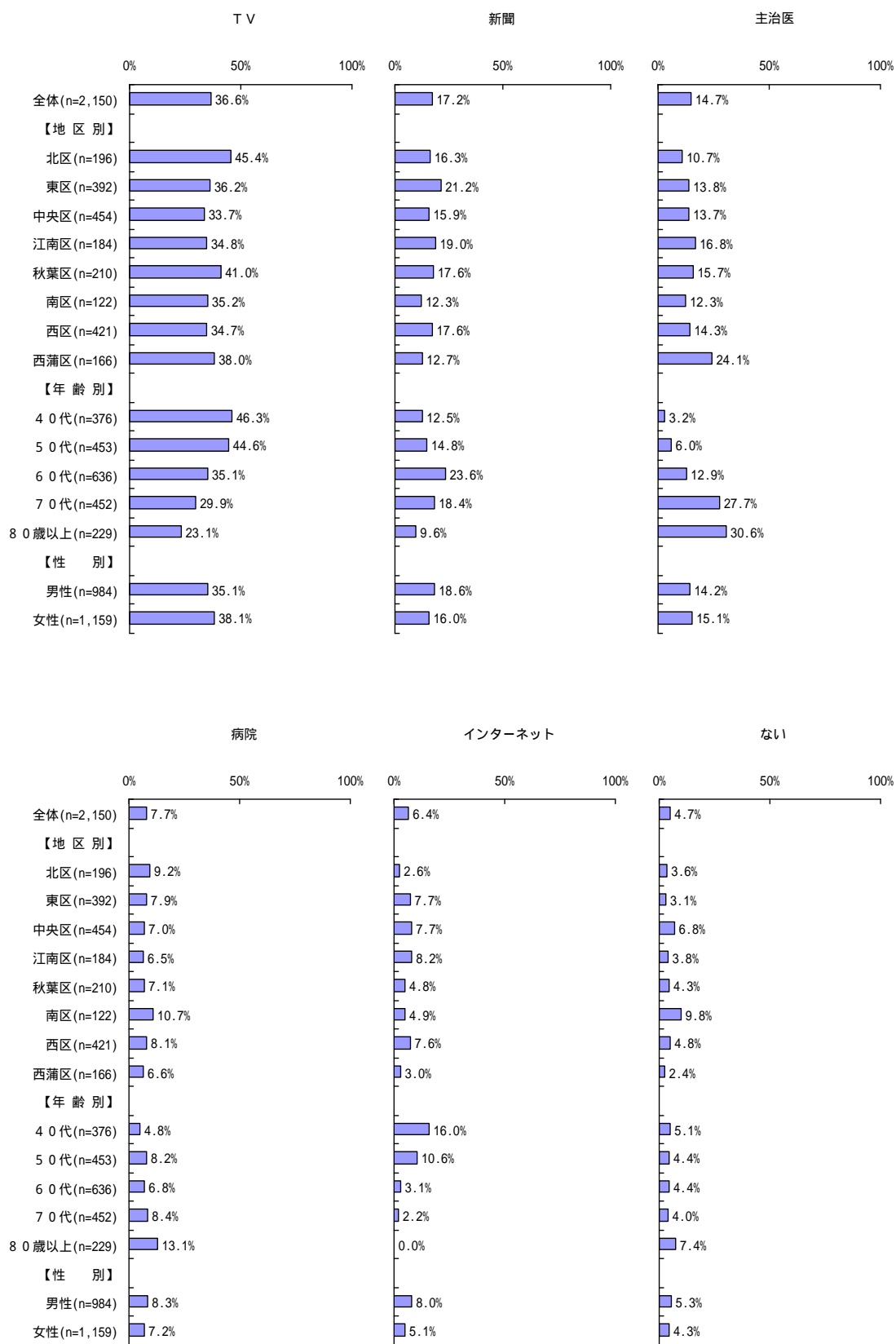
年齢別

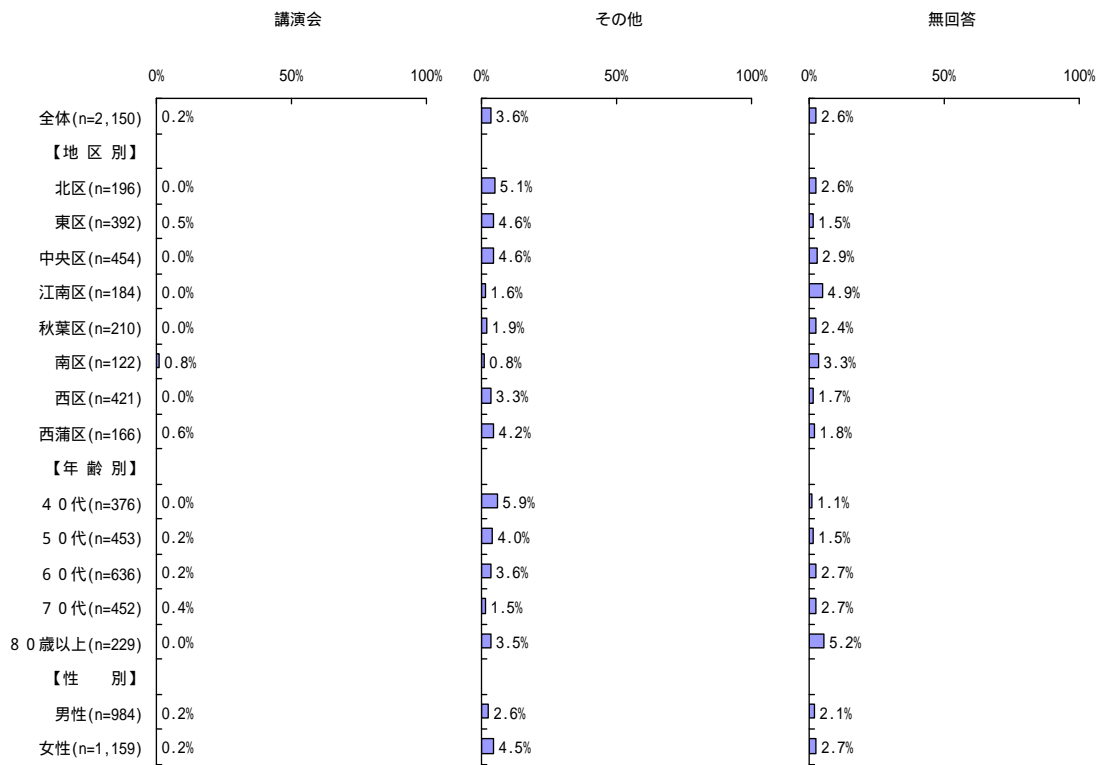
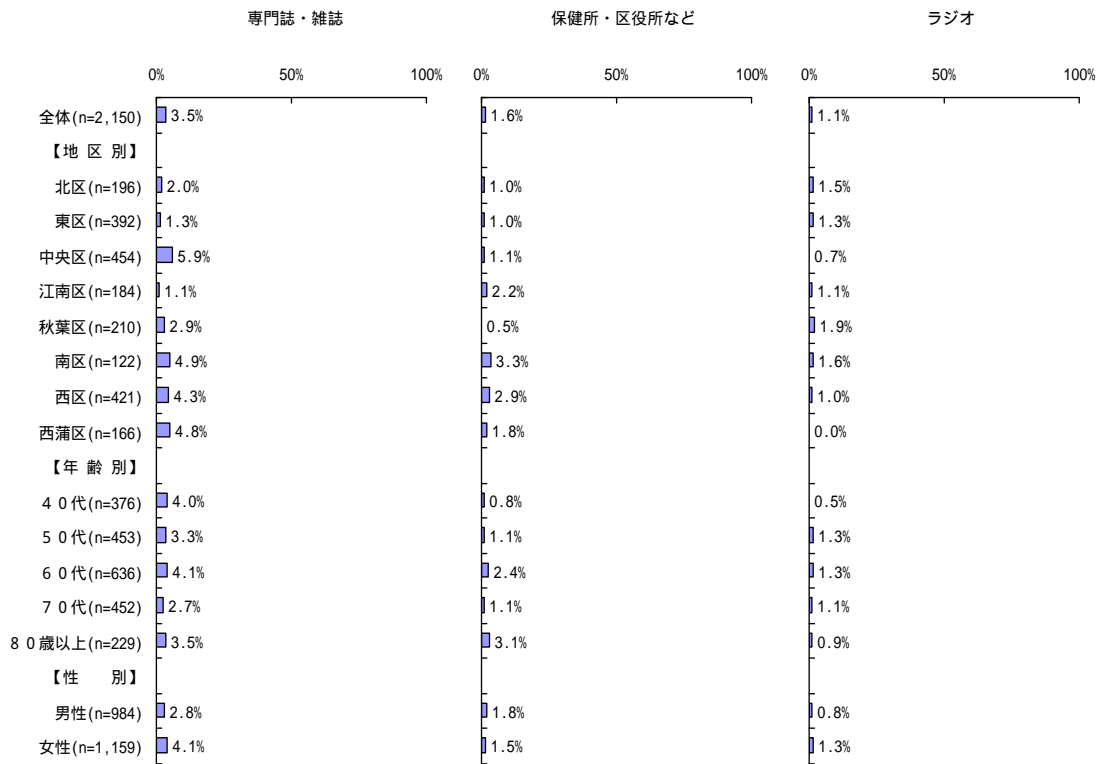
情報源を「テレビ」、「インターネット」の割合は、年代がすすむにつれて減少し、「主治医」とする割合は、年代がすすむにつれて増加する。

性別

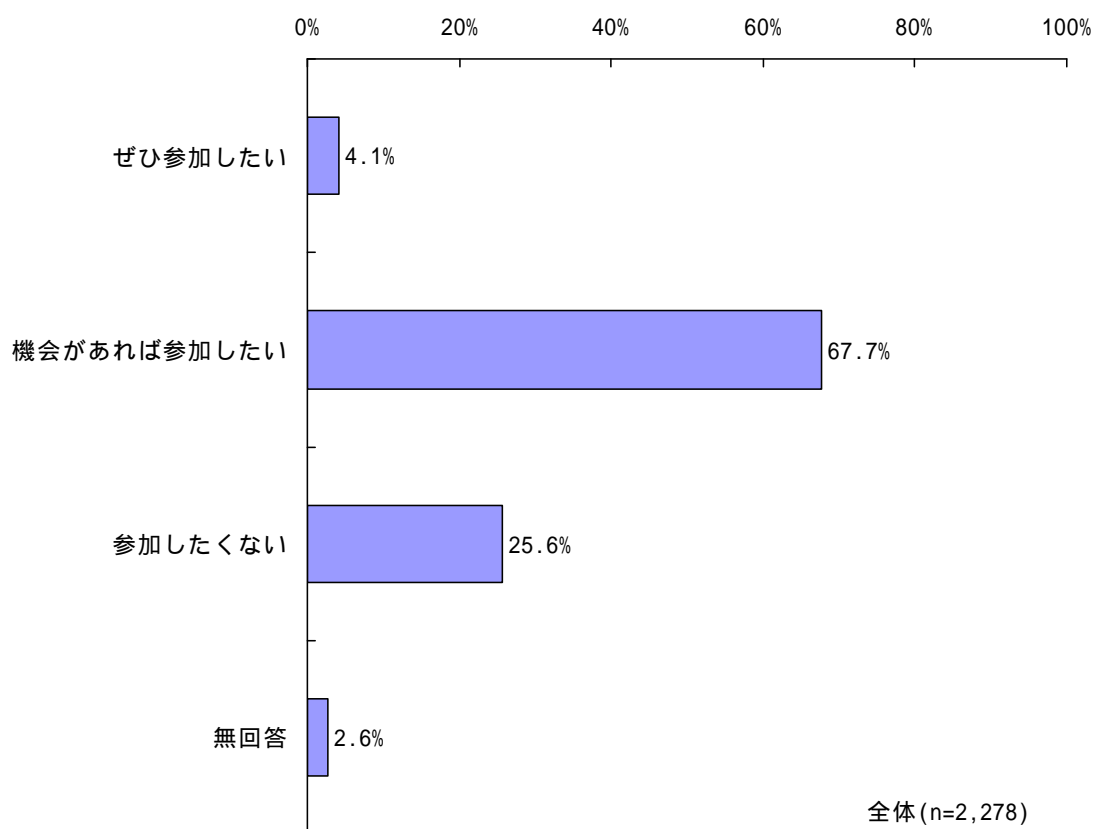
男女とも、「テレビ」(約3割)が最も高く、次いで「新聞」、「主治医」と続く。

図 1 1 医療についての知識や情報を得る手段





問16 あなたは、在宅医療に関する講演会などがあったら、参加したいと思いますか。
(はひとつ)



講演会参加希望は、7割強

【全体結果】

「参加したい」は、71.8%であり、そのうち「ぜひ参加したい」という積極的参加希望は4.1%である。

【属性別結果】(図12参照)

地区別

「ぜひ参加したい」と積極的参加意思の割合が最も高いのは、南区で、7.9%である。「ぜひ参加したい」、「機会があれば参加したい」の割合が高いのは、東区(74.6%)、秋葉区(73.9%)である。

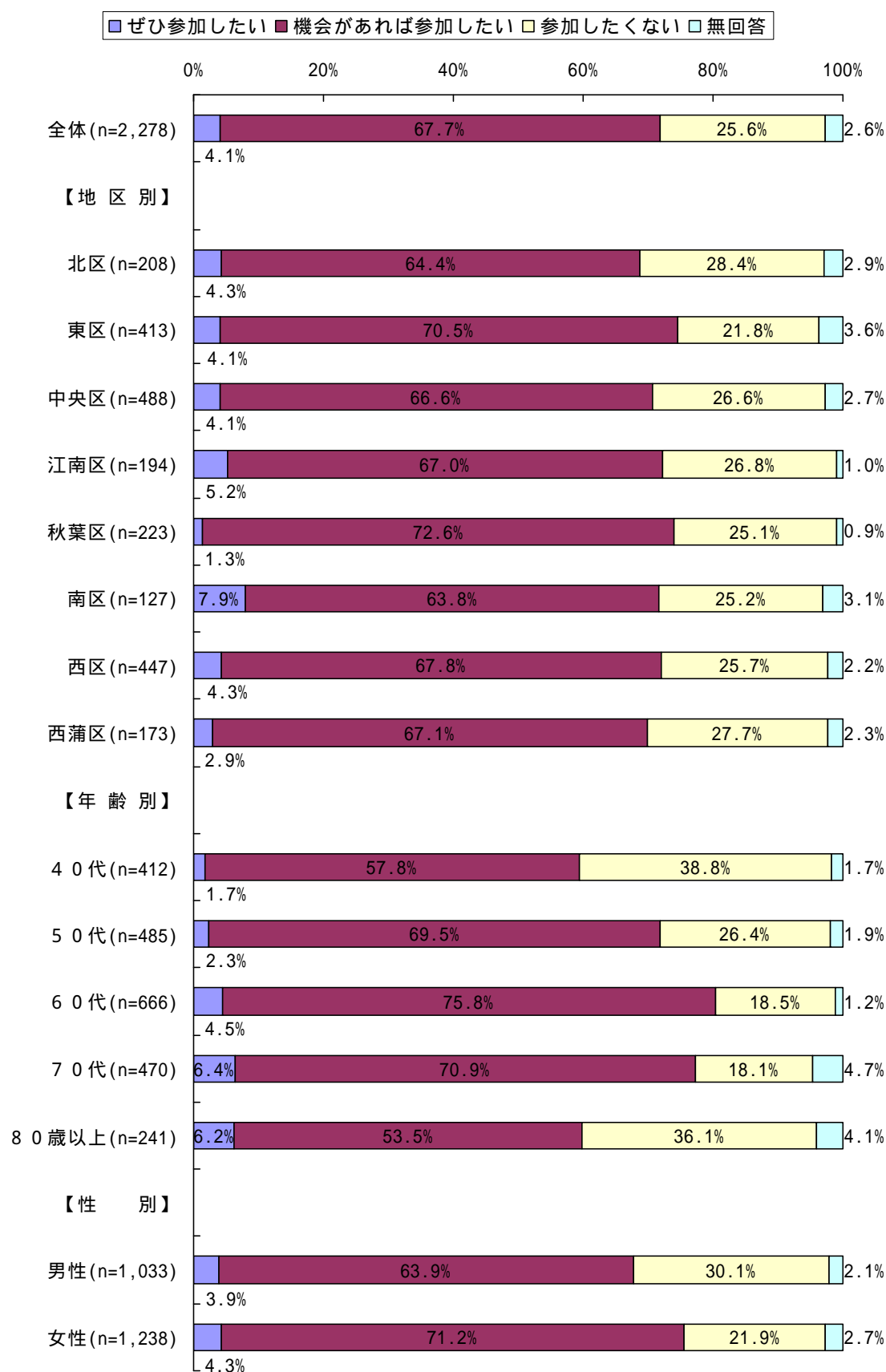
年齢別

「ぜひ参加したい」、「機会があれば参加したい」の割合が高いのは、順に60代(80.3%)、70代(77.3%)、50代(71.8%)である。80歳以上、40代についても約6割は「参加したい」と回答している。

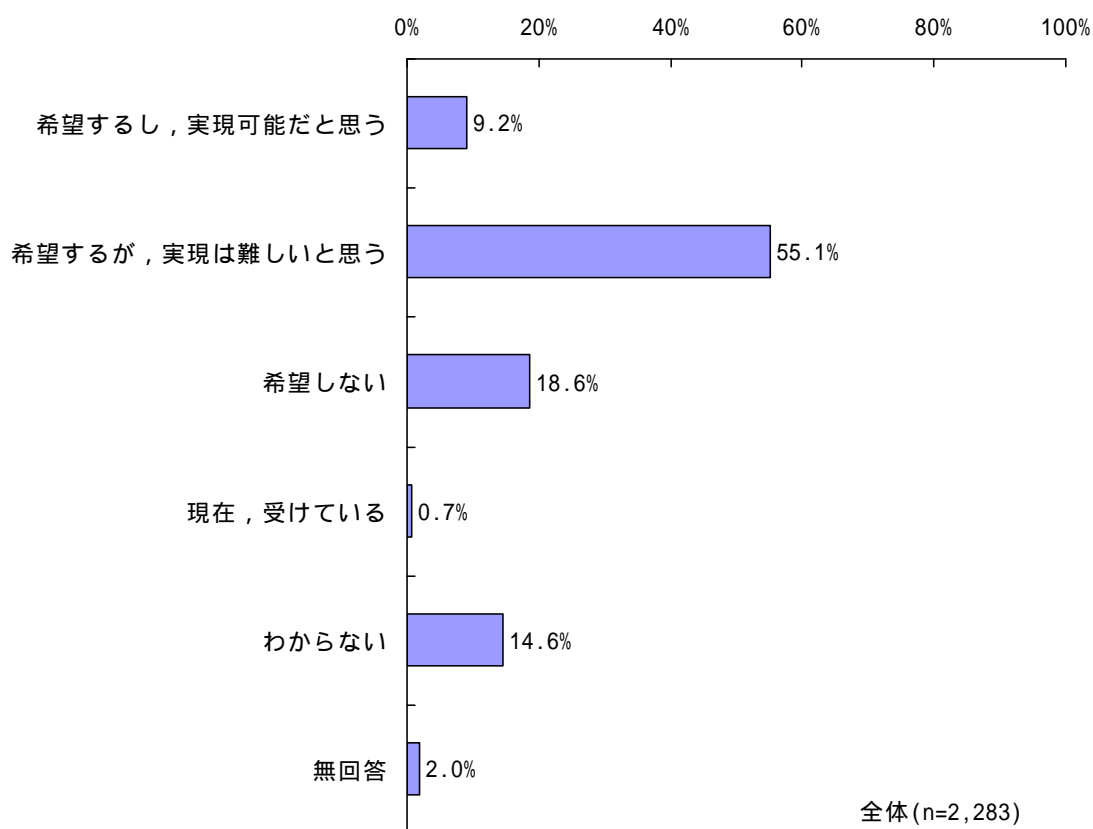
性別

「ぜひ参加したい」、「機会があれば参加したい」の割合が高いのは、女性で75.5%である。男性は67.8%で平均(71.8%)以下である。

図 1 2 在宅医療に関する講演会への参加の意向



問17 あなたは、脳卒中の後遺症やがんなどで長期の治療が必要となった場合、在宅医療を希望しますか。また、実現可能だと思いますか。(はひとつ)



在宅医療の希望は3分の2 しかし、実現は難しいとの認識

【全体結果】

「希望する」が3分の2 (64.3%) を占めるが、「実現は難しいと思う」が 55.1%で、「実現可能だと思う」は約 1 割 (9.2%) である。また、「希望しない」は約 2 割 (18.6%) である。「わからない」が 14.6%、「現在受けている」は 0.7%【15人】である。

【属性別結果】(図13参照)

地区別

「希望する」の割合が高いのは、江南区(68.6%)、東区(68.1%)、南区(66.2%)である。そのうち、「希望するし、実現可能だと思う」の割合が高いのは、秋葉区(11.6%)、中央区(10.0%)で1割以上である。「希望するが、実現は難しいと思う」の割合が高いのは、東区が最も多く、59.1%である。「希望しない」の割合は、西蒲区が一番低く、24.9%と8区の中で唯一2割を超えている。

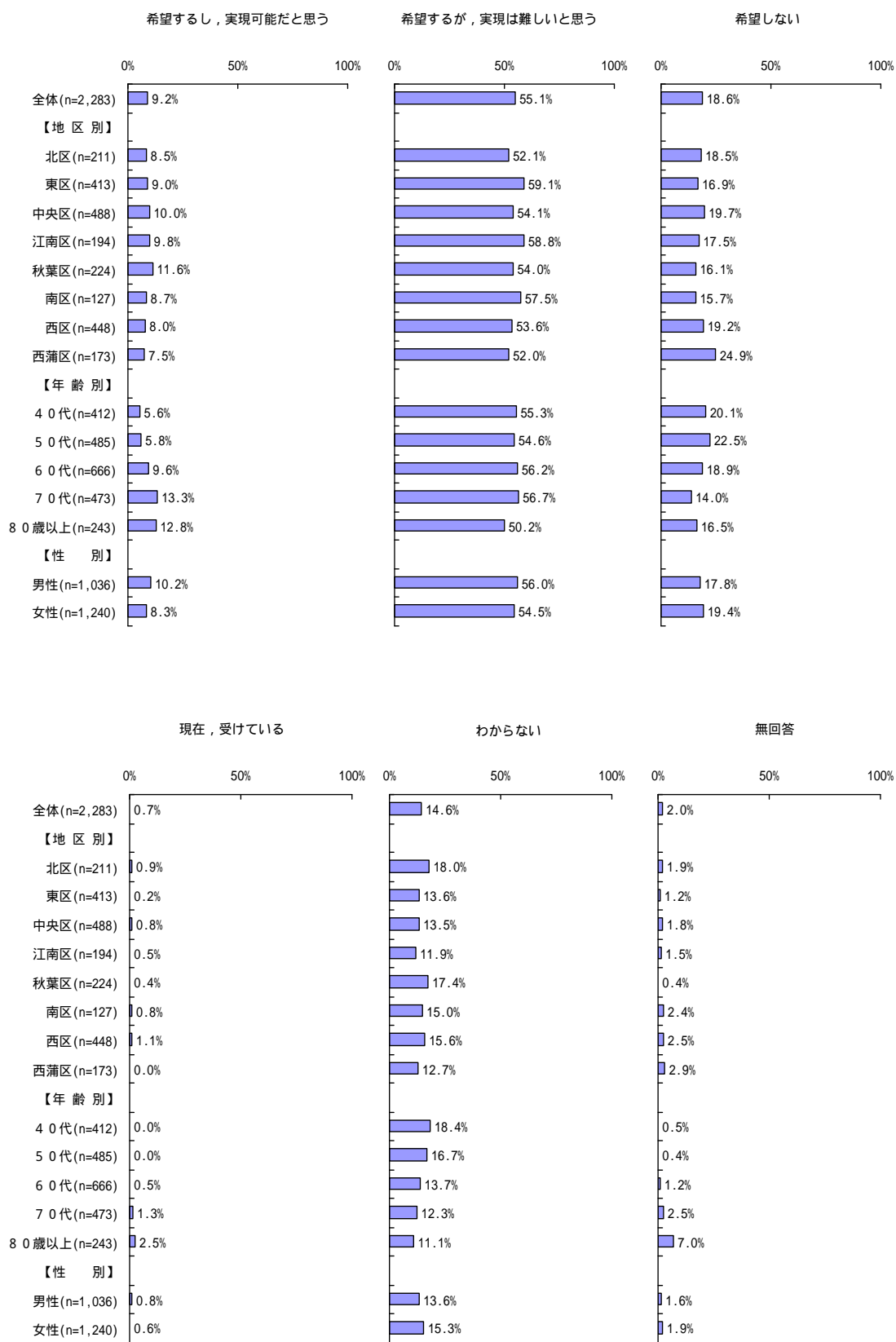
年齢別

「希望する」の割合が高いのは、70代が最も多く、70.0%である。そのうち、「希望するし、実現可能である」の割合が高いのは、70代(13.3%)、80歳以上(12.8%)で、1割以上である。「希望するが、実現は難しいと思う」の割合が高いのは、70代(56.7%)、60代(56.2%)である。「希望しない」の割合が高いのは、50代(22.5%)、40代(20.1%)である。「わからない」の割合は、年齢が高くなるにつれ減少する。

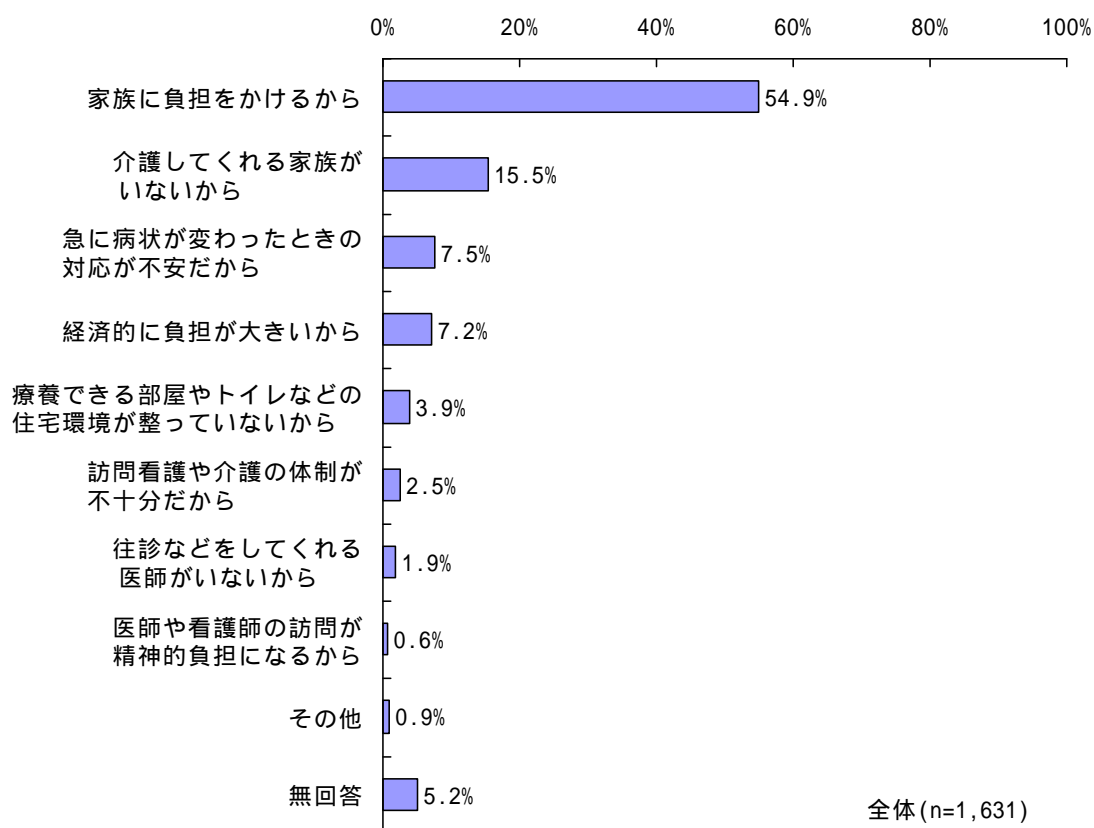
性別

「希望する」の割合が高いのは、男性で、66.2%であり、女性は62.8%である。「希望しない」の割合は、男性が17.8%、女性が19.4%である。

図 1 3 在宅医療の希望及び実現可能性



問18 問17で「希望するが、実現は難しいと思う」、「希望しない」と答えた方にお聞きします。在宅医療を希望しない又は実現が難しいと思う理由は何ですか。
(はひとつ)



在宅医療を希望しない又は実現が難しいと思う理由は、 家族への負担から

【全体結果】

「家族に負担をかけるから」が半数以上（54.9%）を占め、「介護してくれる家族がないから」が 15.5%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 7.5%、「経済的に負担が大きいから」が 7.2%と続く。「往診などをしてくれる医師がないから」、「訪問看護や介護の体制が不十分だから」を理由とするものは、各々約 2%である。

「その他」として、「その時の状況がわからないから」、「老老介護となるから」、「経済的にも家族にも負担であり、行政もまだまだ整備されていないから」等がある。

【属性別結果】(図14参照)

地区別

「家族に負担をかけるから」を理由とする割合は、いずれの区も最も多いが、中央区のみ5割以下である。また、「介護してくれる家族がないから」を理由とする割合は、中央区が最も多く(20.1%)、南区が最も低く(5.5%)、家族構成との関係性がみられる。

「急に病状が変わったときの対応が不安だから」最も高い南区(14.3%)は、問6での「家の近くに安心してすぐにかかれる医療機関がない」の割合も22.0%と高い。

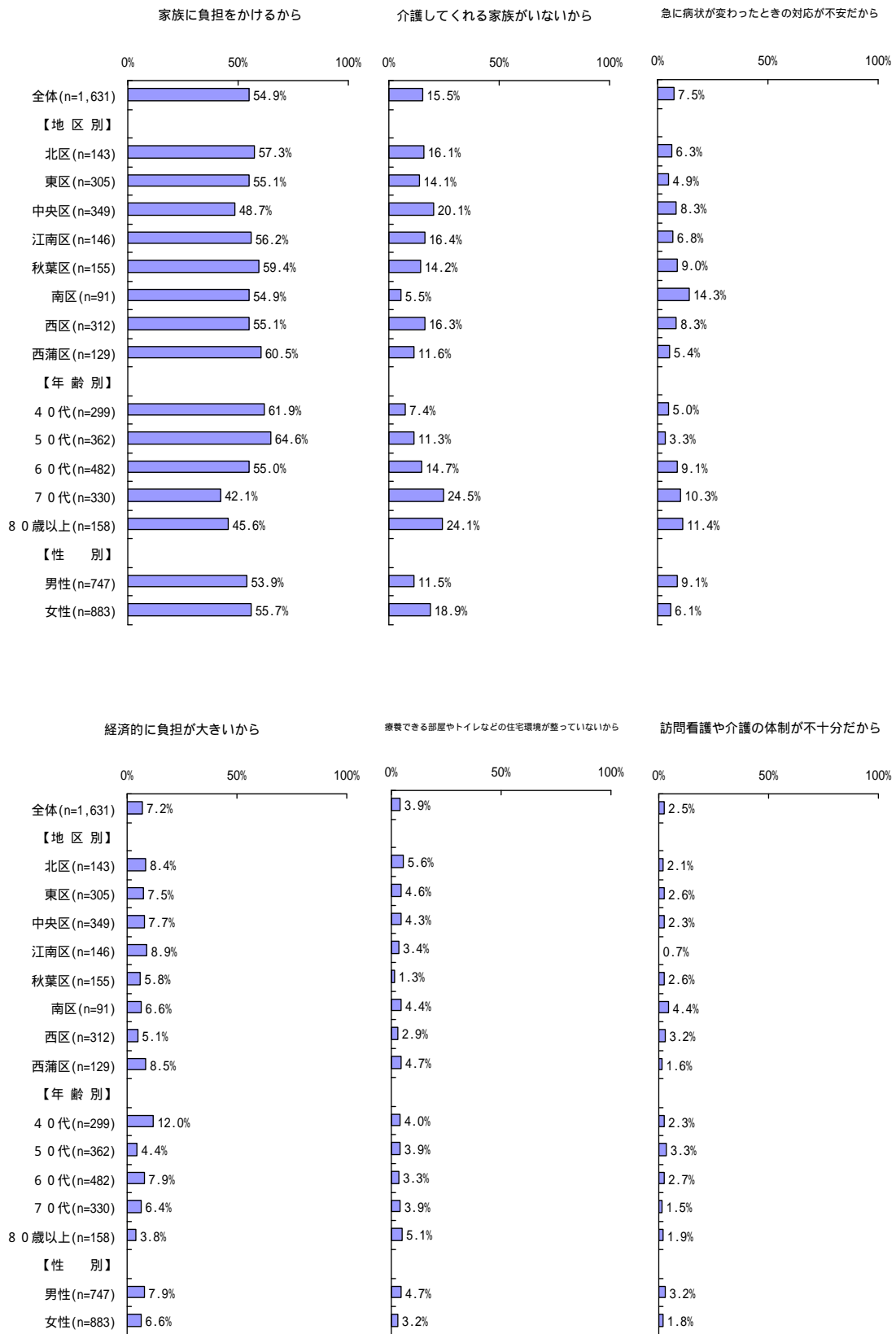
年齢別

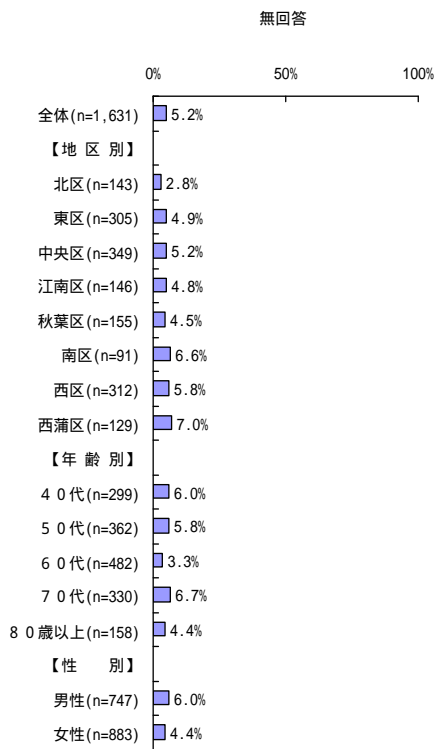
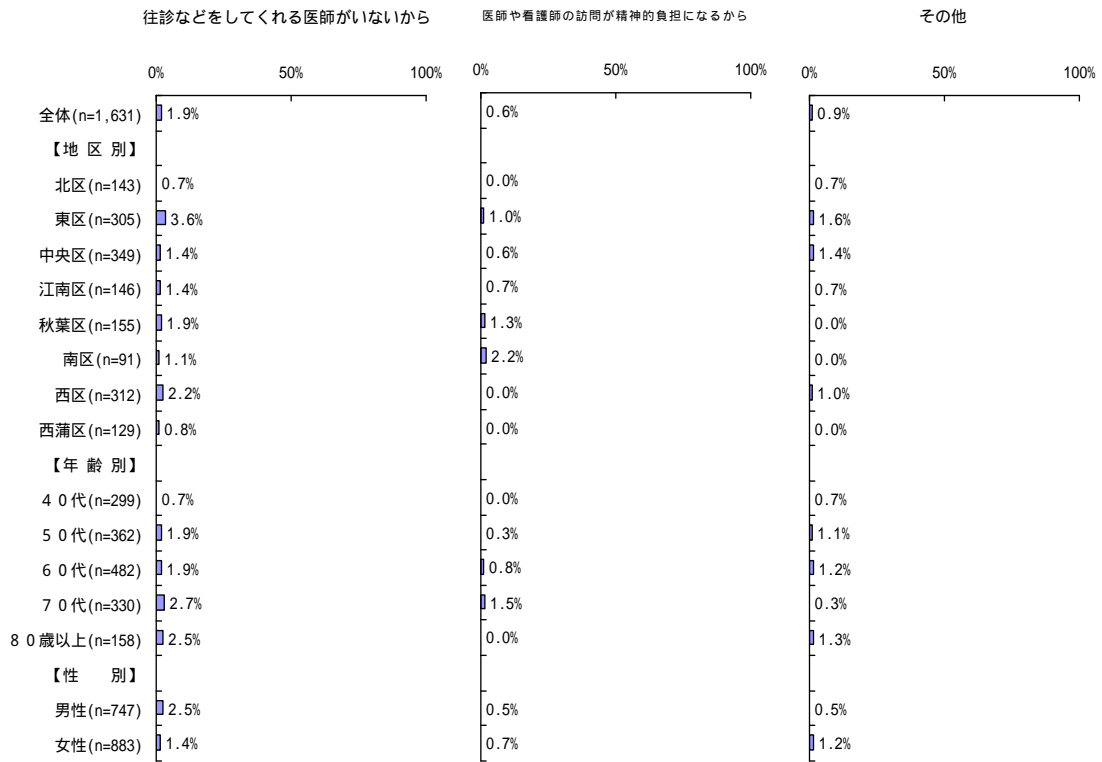
「家族に負担をかけるから」の割合は、いずれの年代も最も多く、40代、50代では6割を超えている。また、40代は経済的負担を理由とする割合が高い。

性別

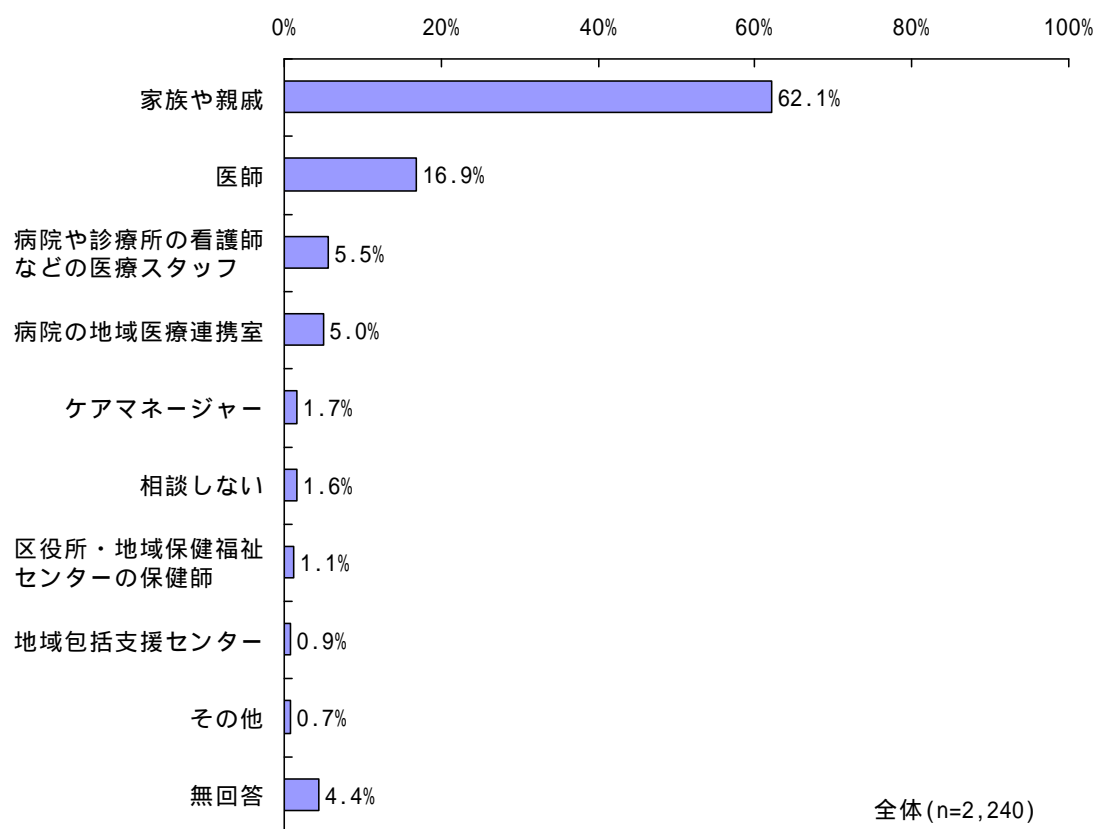
介護してくれる家族がないとの理由については、男女差がみられ、男性(11.5%)、女性(18.9%)である。

図 1 4 在宅医療を希望しない又は実現が難しいと思う理由





問19 あなたは、もし入院が必要となったら、入院の継続や在宅療養について、誰に相談しますか。(はひとつ)



療養についての相談相手は、家族や親戚が6割

【全体結果】

「家族や親戚」が最も多く62.1%、次いで「医師」が16.9%であり、「看護師など」や「地域医療連携室」を合わせた医療機関スタッフは27.4%である。

「その他」として、「まわりの人全員」、「施設の職員」、「職場の上司」、「その時になって状況を見ながら」、「相談は複数すると思う」、「相談する人がいない」、「自分で調べる」、「誰に相談してよいか分からない」、「まだ考えたことがない」等がある。

【属性別結果】(図15参照)

地区別

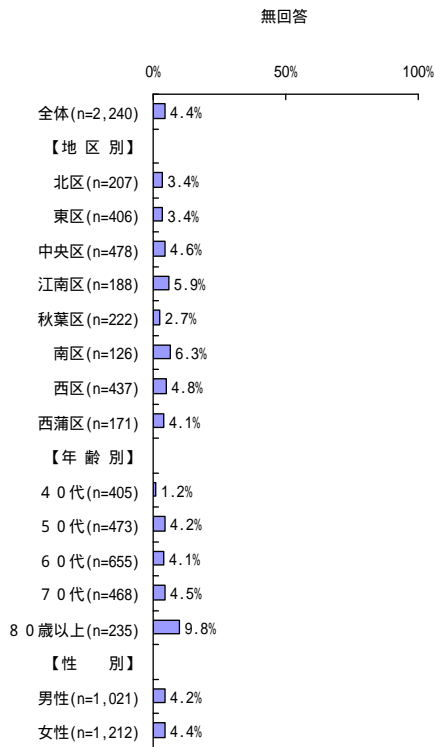
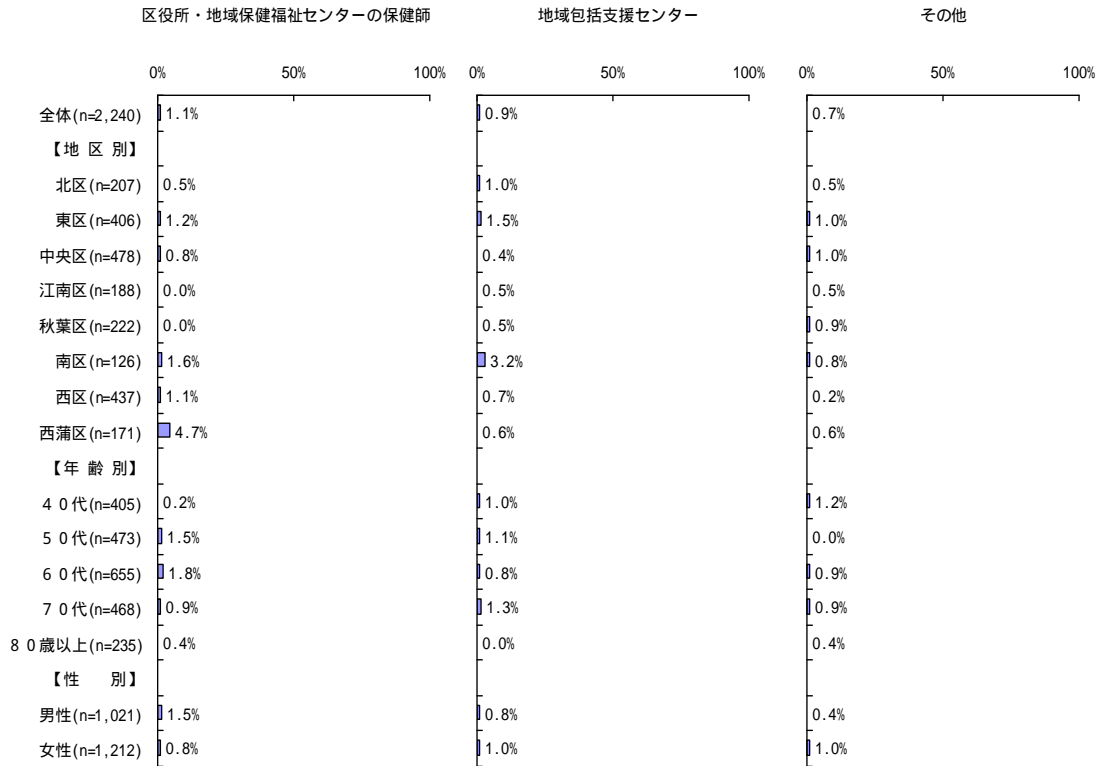
相談相手を「家族や親戚」とする割合は、秋葉区(69.4%)、江南区(66.0%)で高く、中央区(56.3%)、南区(57.9%)は少ない。「医師」、「病院や診療所の看護師などの医療スタッフ」と「病院の地域医療連携室」を合わせた医療スタッフは、中央区(32.0%)が高く、江南区(23.4%)、秋葉区(23.9%)が低い。また、西蒲区は「区役所・地域保健福祉センターの保健師」を挙げている(4.7%)。

年齢別

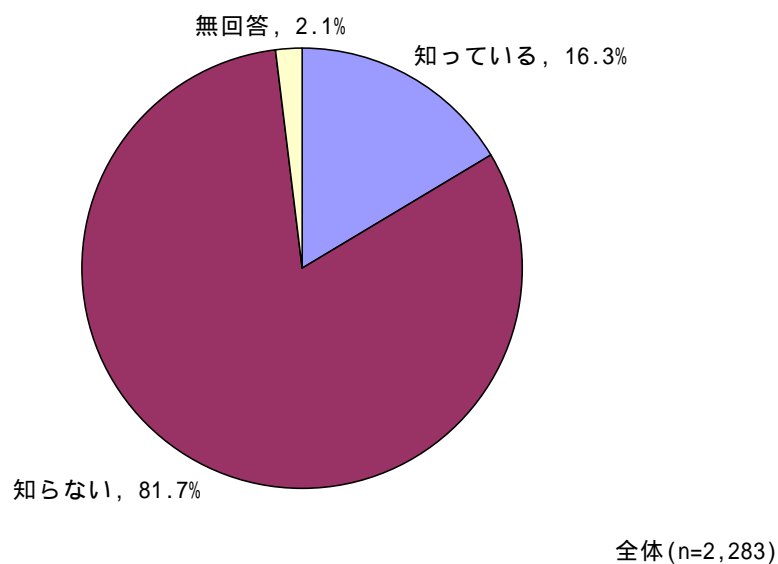
「家族と親戚」の割合は、いずれの年代で最も多く、80歳以上においては、7割である。

性別

「家族と親戚」の割合は男性が58.2%、女性が65.6%である。「医師」、「病院や診療所の看護師などの医療スタッフ」、「病院の地域医療連携室」を合わせた医療スタッフは、男性が30.7%、女性が24.9%である。



問20 あなたは、「在宅療養支援診療所」を知っていますか。(はひとつ)



「在宅療養支援診療所」とは、24時間体制で往診や訪問看護を実施する診療所のことをいいます。

在宅療養支援診療所を「知っている」は2割に満たない

【全体結果】

「知っている」は、16.3%であり、「知らない」は81.7%である。

【属性別結果】(図16参照)

地区別

「知っている」の割合が高いのは、西蒲区(19.1%)、中央区(18.0%)、秋葉区(17.9%)であり、「知らない」の割合は、南区(85.8%)、西区(84.8%)が高い。

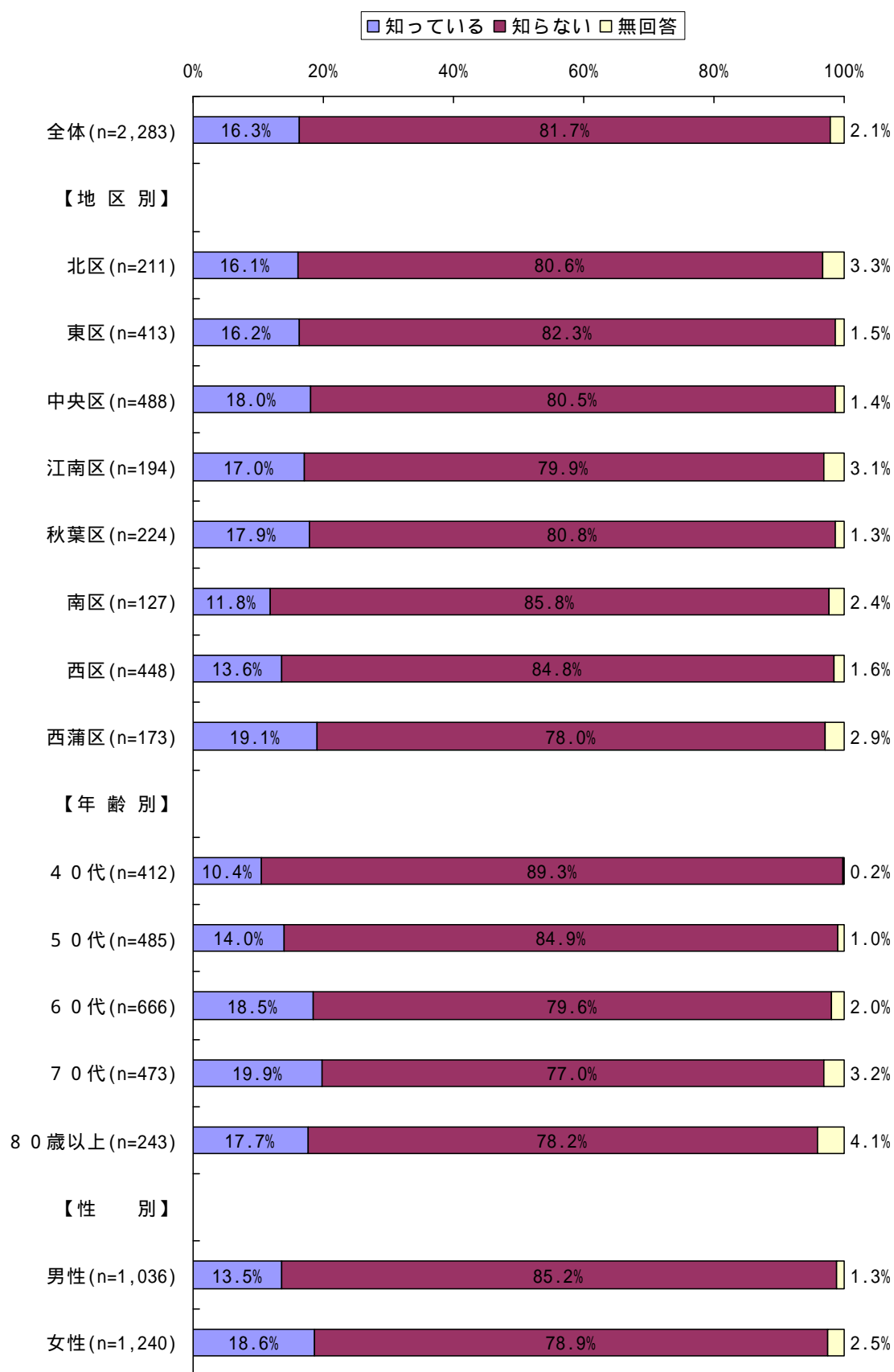
年齢別

60代、70代で「知っている」の割合が高いが、2割に満たない。

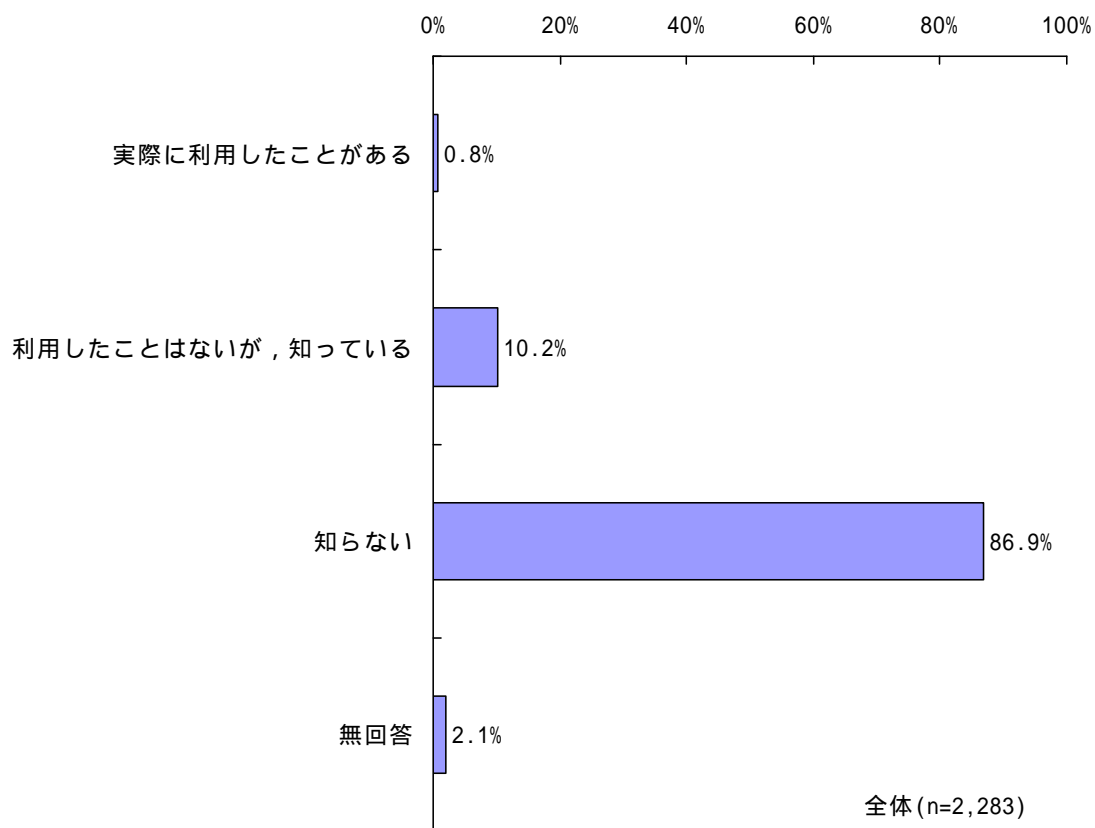
性別

「知っている」の割合は、女性が18.6%で、男性の13.5%を上回る。

図 1 6 「在宅療養支援診療所」の認知状況



問2 1 あなたは、自宅近くにある在宅療養支援診療所を知っていますか。(はひとつ)



自宅近くにある在宅療養支援診療所を「知っている」は約1割

【全体結果】

「知っている」は10.2%で、「実際に利用したことがある」の0.8%と合わせて、11.0%であり、「知らない」は86.9%である。

【属性別結果】(図17参照)

地区別

「実際に利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」を合わせると、秋葉区(13.4%)が最も高く、西区(8.7%)が最も低い。「知らない」の割合は、いずれの区も8割以上を占める。

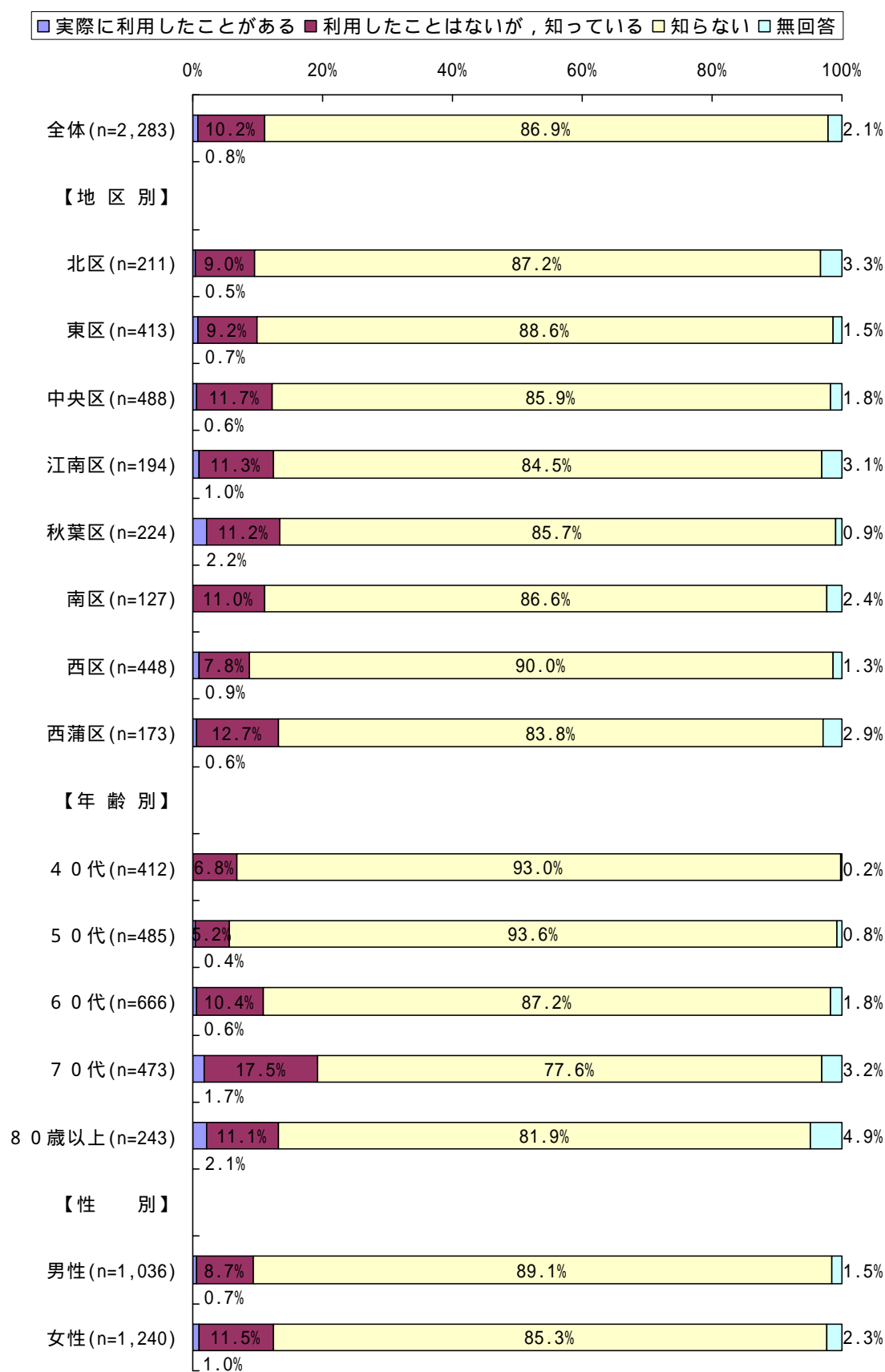
年齢別

「知っている」の割合は、70代が最も多く、「実際に利用したことがある」と合わせると、19.2%で、「知らない」は77.6%である。40代、50代は、9割以上が「知らない」との回答である。

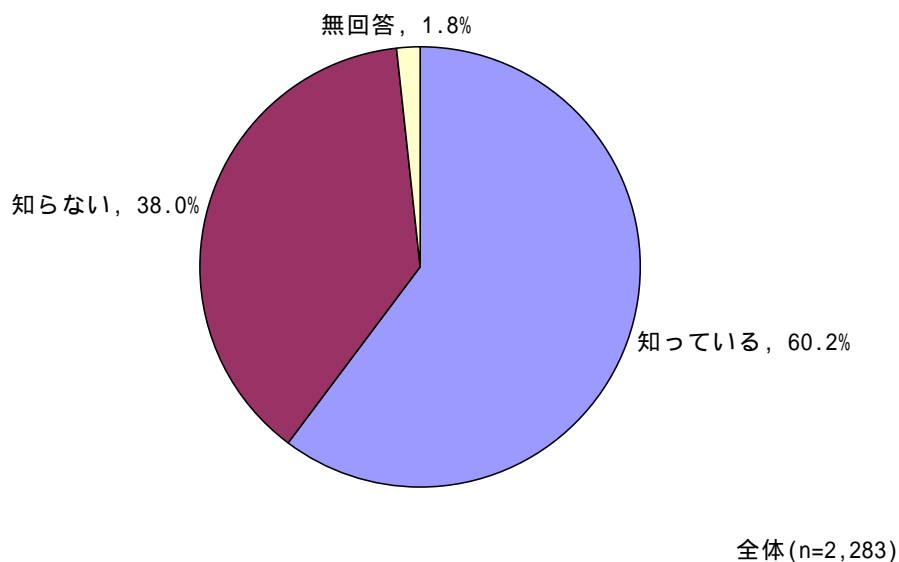
性別

「実際に利用したことがある」、「知っている」の割合は、女性が男性より高く、12.5%である。

図 1 7 自宅近くにある在宅療養支援診療所の認知状況



問2 2 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護サービス」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか。(はひとつ)



「訪問看護サービス」とは、訪問看護ステーション等から、看護師が医師の指示を受け、自宅へ訪問し、看護ケアを提供するサービスのことをいいます。

訪問看護サービスについて、6割が知っている

【全体結果】

「知っている」と回答した割合は6割(60.2%)で、「知らない」は約4割(38.0%)である。

【属性別結果】(図18参照)

地区別

「知っている」の割合は、西蒲区(66.5%)、秋葉区(65.2%)が高く、南区(54.3%)が最も低い。

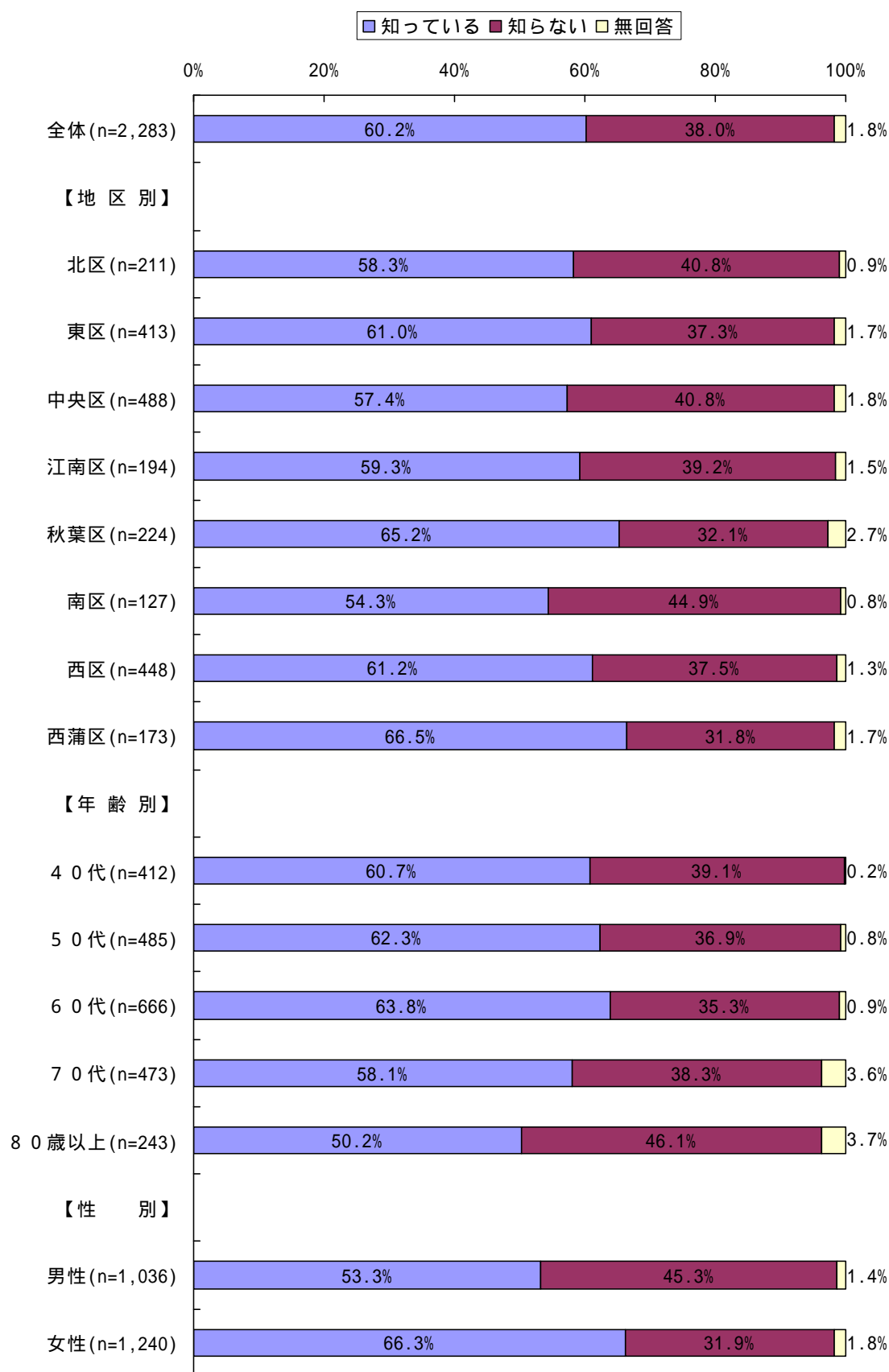
年齢別

「知っている」の割合は、60代(63.8%)が最も高く、80歳以上(50.2%)が最も低い。

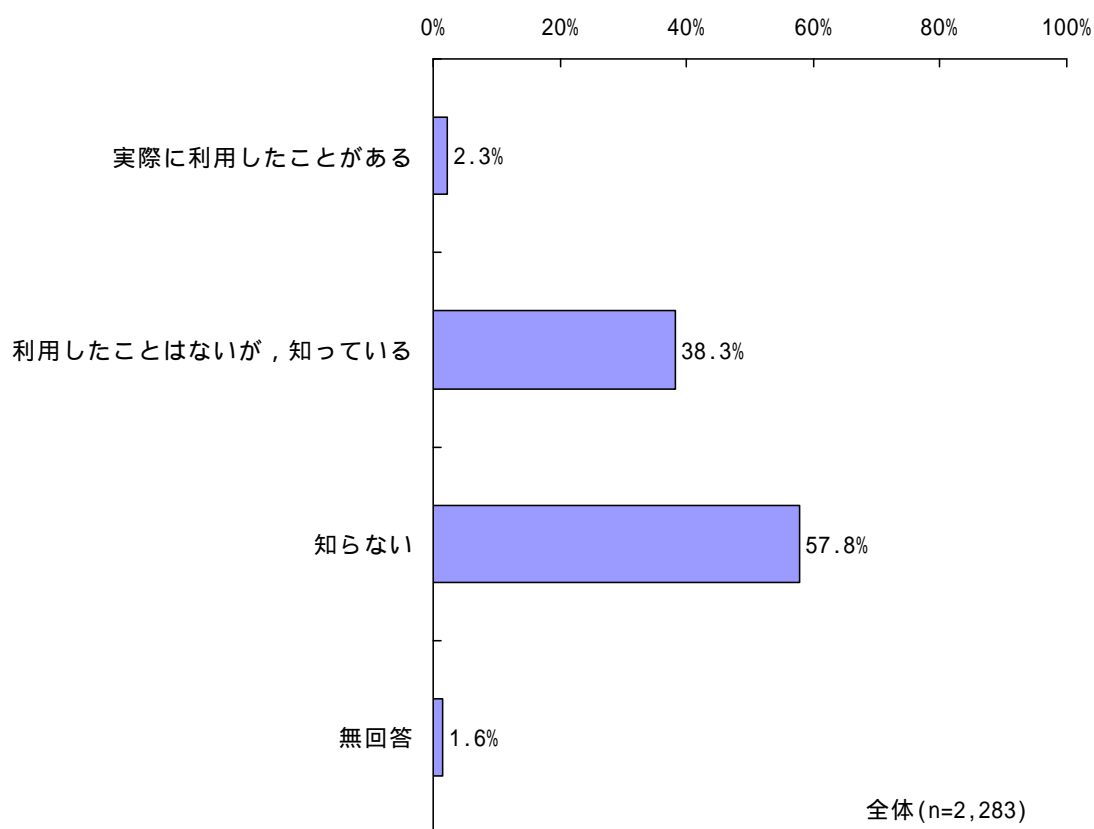
性別

「知っている」の割合が高いのは、女性であり、66.3%である。男性は53.3%で、平均(60.2%)以下である。

図18 「訪問看護サービス」の認知状況



問23 あなたは、訪問看護サービスを利用したことがありますか。また、自宅近くにある訪問看護ステーションを知っていますか。(はひとつ)



自宅近くにある訪問看護ステーションを「知っている」は約4割

【全体結果】

「知っている」は38.3%で、「実際に利用したことがある」の2.3%と合わせて、約4割である。

問22の訪問看護制度自体は約6割が知っているが、そのサービスを提供する訪問看護ステーションの存在は、知られていない。

【属性別結果】(図19参照)

地区別

「実際に利用したことがある」、「知っている」の割合が高いのは、西蒲区で、8区の中で唯一半数以上の52.6%を占めており、次いで秋葉区(44.6%)である。「知らない」の割合が高いのは、中央区、江南区はともに61.3%である。

年齢別

「実際に利用したことがある」、「知っている」の割合が高いのは、70代が46.5%で、40代が32.1%と最も低い。

性別

「実際に利用したことがある」、「知っている」の割合が高いのは、女性で、44.9%であり、男性は35.7%である。

【クロス集計結果】 訪問看護サービスの認知度(1)と訪問看護ステーション認知度(2)

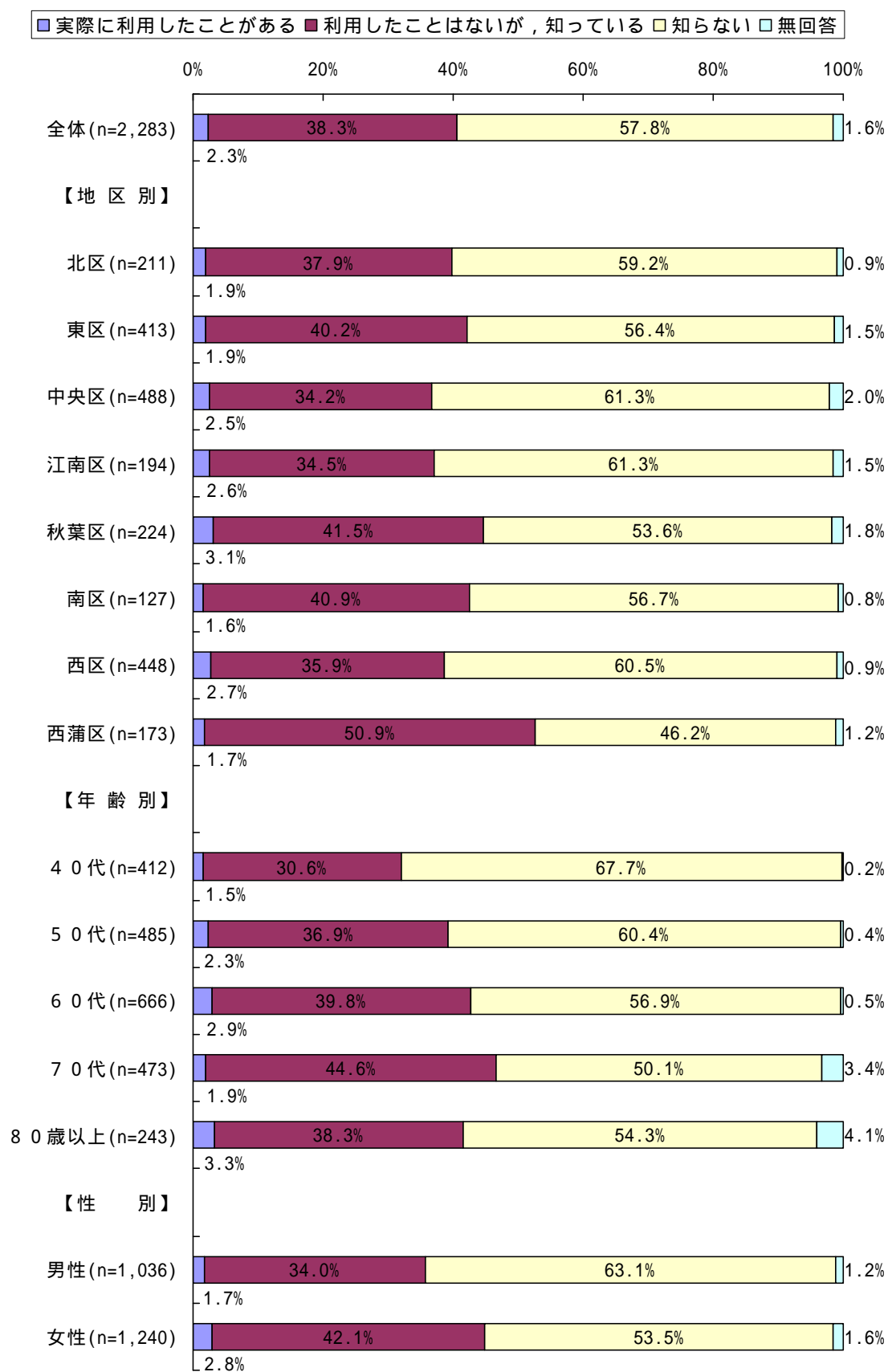
(1) 訪問看護サービスについて「知っている」

(2) 訪問看護ステーションについて「知っている」

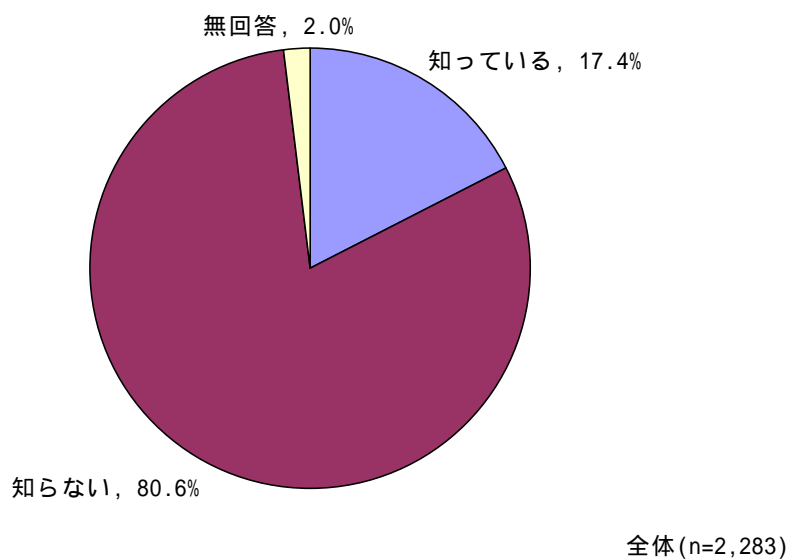
訪問看護サービスについて「知っている」割合の高い西蒲区、秋葉区は、訪問看護ステーションを「実際に利用したことがある」、「知っている」とする割合も高い。

また、南区においては、サービスを「知っている」割合は、8区の中で最も低いだが、訪問看護ステーションを「実際に利用したことがある」、「知っている」割合は、西蒲区、秋葉区に次いで高い。

図19 訪問看護サービスの利用状況及び自宅近くにある訪問看護ステーションの認知状況



問24 あなたは、病診連携 や診診連携 という体制を知っていますか。(はひとつ)



「病診連携」とは、病院と診療所がそれぞれの役割、機能を分担し、互いに連携することをいい、「診診連携」とは、診療所同士が連携することをいいます。

病診連携，診診連携を「知っている」は2割弱

【全体結果】

「知っている」は17.4%で、「知らない」は80.6%である。

【属性別結果】(図20参照)

地区別

中央区が「知っている」の割合で唯一2割以上の20.5%である。

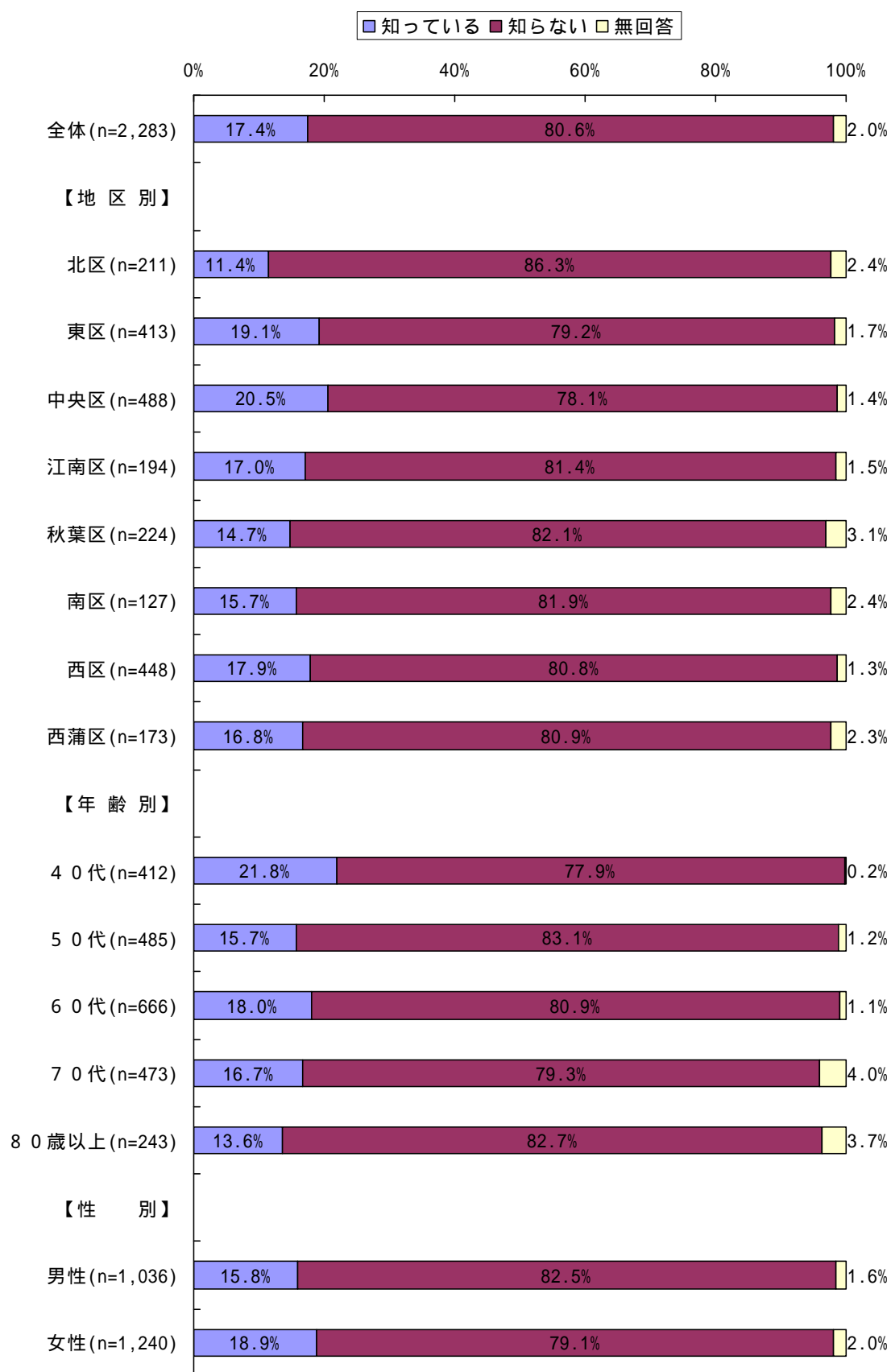
年齢別

40代の「知っている」の割合が21.8%で最も高い。

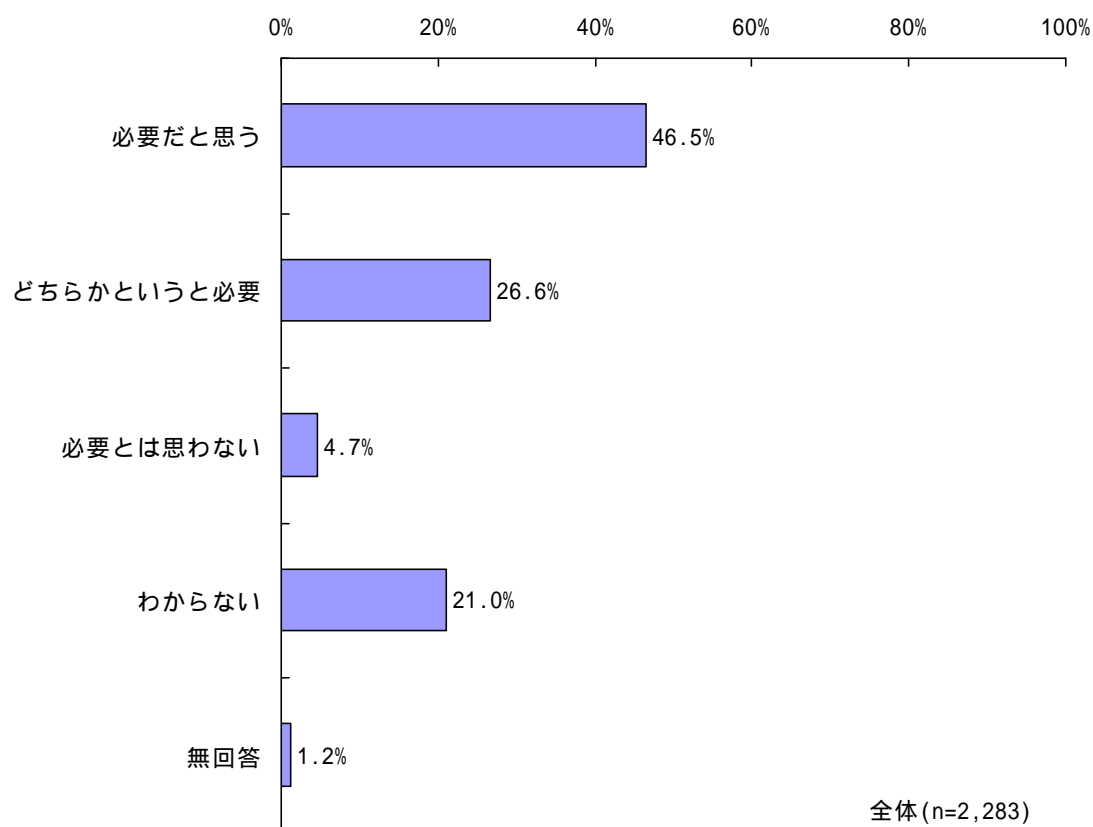
性別

「知らない」の割合は、男性15.8%、女性18.9%である。

図 2 0 「病診連携」「診診連携」の認知状況



問25 あなたは、「在宅医療」を充実することが必要だと思いますか。(はひとつ)



在宅医療の充実が必要だと思うのは、4分の3を占める

【全体結果】

「必要だと思う」は、約半数で 46.5%、「どちらかという必要」を合わせると 73.1%である。「わからない」は 21.0%で、「必要とは思わない」は 4.7%である。

【属性別結果】(図 2 1 参照)

地区別

「必要だと思う」、「どちらかという必要」の割合が高いのは、秋葉区(79.0%)、江南区(77.9%)、中央区(74.8%)と続く。「必要だと思う」と積極的に回答した割合が高いのは、中央区(49.4%)、西区(48.9%)である。「必要とは思わない」の割合は、西蒲区が約1割で9.2%である。

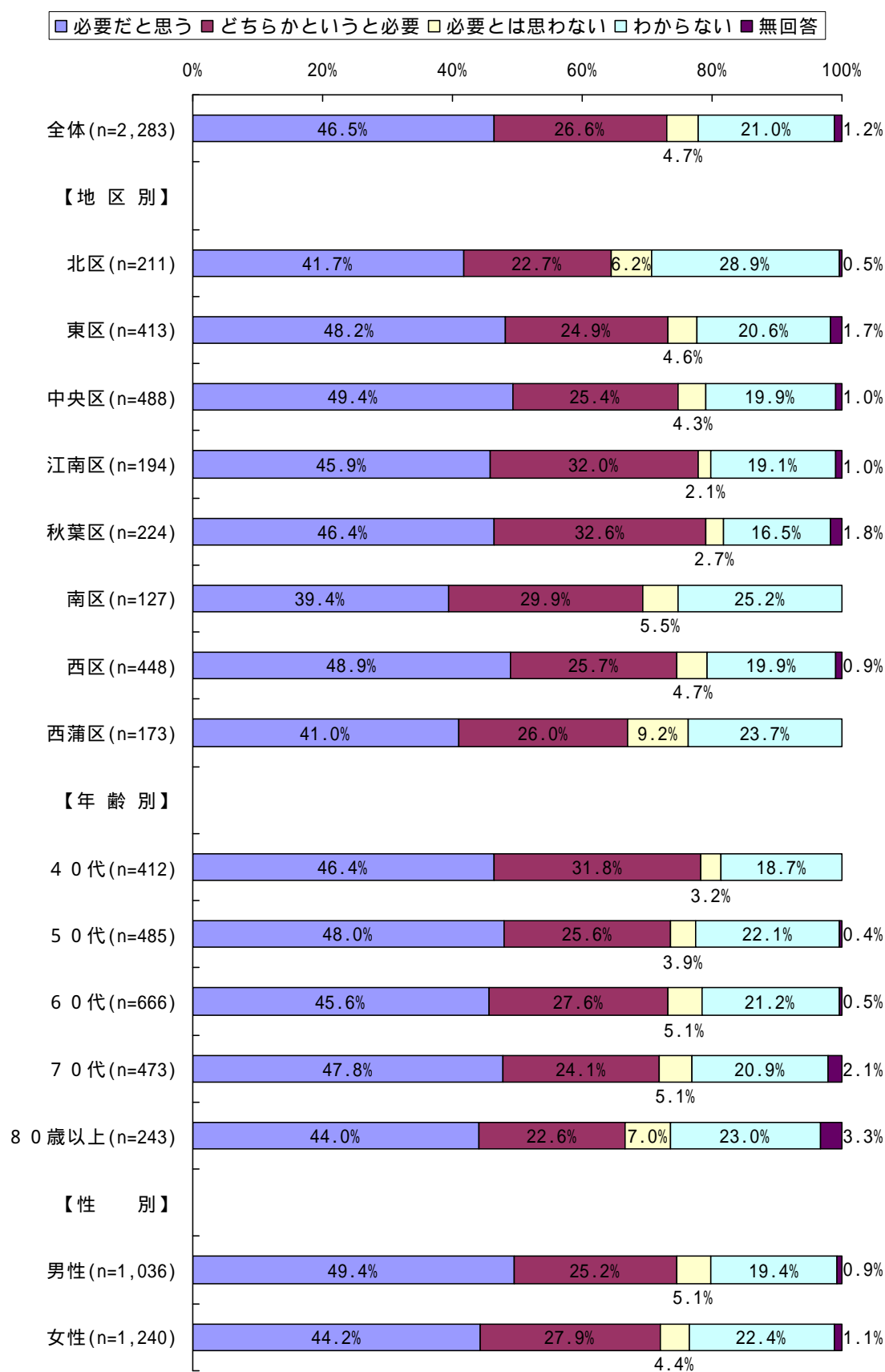
年齢別

「必要だと思う」、「どちらかという必要」の割合が高いのは、年齢が高くなるにつれ減少する。

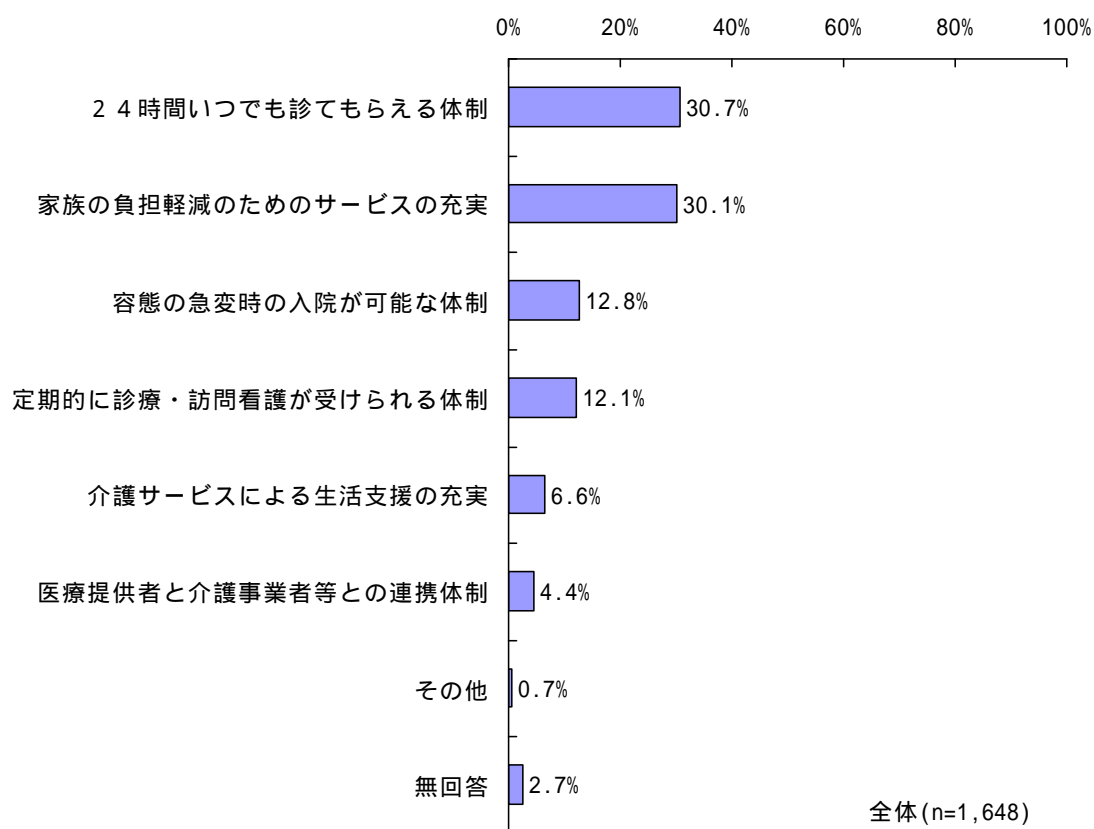
性別

「必要だと思う」、「どちらかという必要」の割合が高いのは、男性で、74.6%、女性は72.1%である。

図 2 1 「在宅医療」を充実することの必要性



問26 問25で「必要だと思う」、「どちらかという必要」と答えた方にお聞きします。どのような体制の整備が一番重要だと思いますか。(はひとつ)



重要だと思う体制は、
24時間の診療体制と負担軽減のためのサービスの充実

【全体結果】

「24時間いつでも診てもらえる体制」が30.7%、「家族の負担軽減のためのサービスの充実」が30.1%とともに3割を占める。次いで、「容態の急変時の入院が可能な体制」が12.8%、「定期的に診療・訪問看護が受けられる体制」が12.1%である。

「その他」として、「全てと医療従事者を増やす体制の整備」、「全て重要だが、その時の状況により、必要となった場合どのような体制か判断する」、「どうすればいいか相談窓口の充実と広報」等がある。

【属性別結果】(図2.2参照)

地区別

南区は、「家族の負担軽減のためのサービスの充実」が最も多く 38.8%であり、全区で最も高い。逆に「容態の急変時の入院が可能な体制」は 7.1%で、最も低い。西蒲区は、「24時間いつでも診てもらえる体制」が 25.4%と 8 区で最も低い。

年齢別

「24時間いつでも診てもらえる体制」は年齢とともに増加し、80歳以上では最も高く 39.7%である。また、「家族の負担軽減のためのサービスの充実」は、年代とともに下がり、80歳以上では最も低く 16.0%である。「介護サービスによる生活支援の充実」も同様の傾向で、70歳代で 2.1%、80歳以上では 3.2%である。

性別

男女とも、「24時間いつでも診てもらえる体制」が 3 割、次いで、「家族の負担軽減のためのサービスの充実」である。

図 2 2 「在宅医療」を充実するために整備する一番重要な体制

